

平成13年度  
特別案件等調査団報告書  
「国別特設 ウズベキスタン地域観光振興コース」

2002年5月

JICA LIBRARY



J1171717(0)

国際協力事業団  
大阪国際センター

2.

大阪セ

JR

01-5

平成13年度  
特別案件等調査団報告書  
「国別特設 ウズベキスタン地域観光振興コース」

2002年5月

国際協力事業団  
大阪国際センター



1171717【0】

## 序文

国際協力事業団（JICA）はソ連邦から独立した中央アジアの国々に対し市場経済化に対する種々の協力を実施しているが、この度ウズベキスタン国より観光開発に携わる人材の育成支援の要請があり、これに対しJICAは平成13年度からの案件として当大阪国際センターが実施することとなった。

「ウ」国は観光資源が豊富でシルクロードの要衝に位置すること、関西は観光資源が豊富なことから観光開発に係るノウハウが蓄積されていること並びに奈良県がシルクロードとの関係を強く持っていることから、地方自治体との連携推進に鑑み、奈良県の協力を得て本研修コースを実施することとした。

本研修を実施するに当たり、「ウ」国の観光開発の現状、人材育成に係る具体的なニーズ及び効果的な研修実施を図るための情報を得ること等を目的に奈良県の協力を得て、調査団を派遣しました。

本報告書は調査団の現地での調査内容をまとめたものです。本調査団は平成13年9月8日から9月21日までの14日間、9月11日のアメリカにおける同時多発テロの発生によりアフガニスタンと国境を接する「ウ」国の危機が懸念され、奈良県を始め関係者に多大なご心配をかけましたが、「ウ」国の各地を訪問、調査し、「ウ」国側関係者と具体的な協力内容について協議が行われ実り多い成果を得ることが出来ました。

本報告書が当該分野における「ウ」国の実状、問題点及び本研修コースのカリキュラム策定等について関係各位のさらに深いご理解を頂くための一助となり、円滑な研修員受け入れ事業に貢献出来れば幸甚です。

最後に本調査団の派遣に当たりましてご協力を賜りました奈良県庁並びに現地においてご指導頂きました在ウズベキスタン日本国大使館をはじめ関係機関の方々に厚くお礼申し上げます。

平成14年5月

大阪国際センター  
斎藤 寛志



## ウズベクツーリズム





# 大臣会議







タシケント商業観光学校

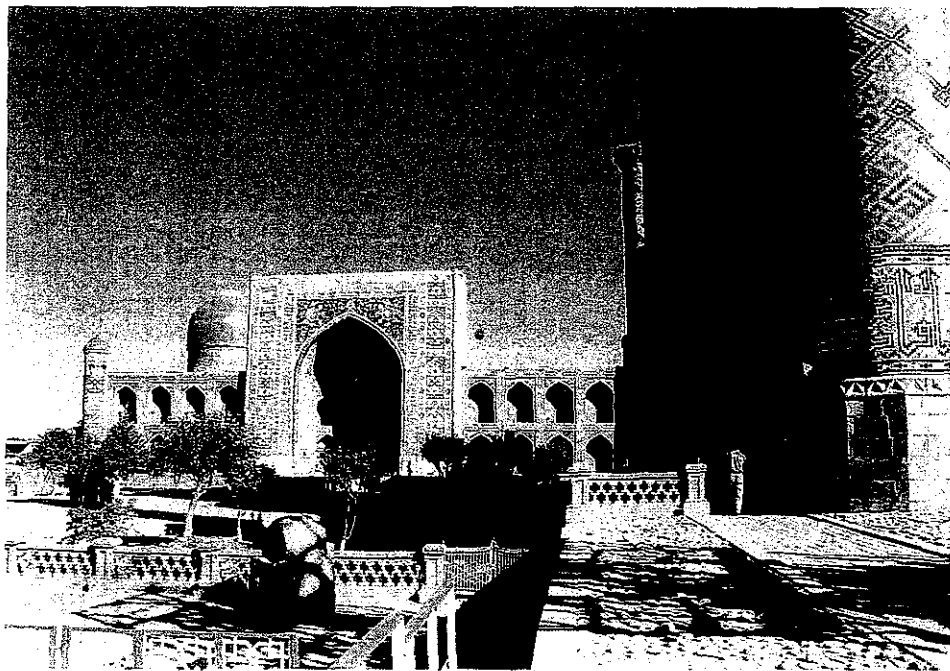




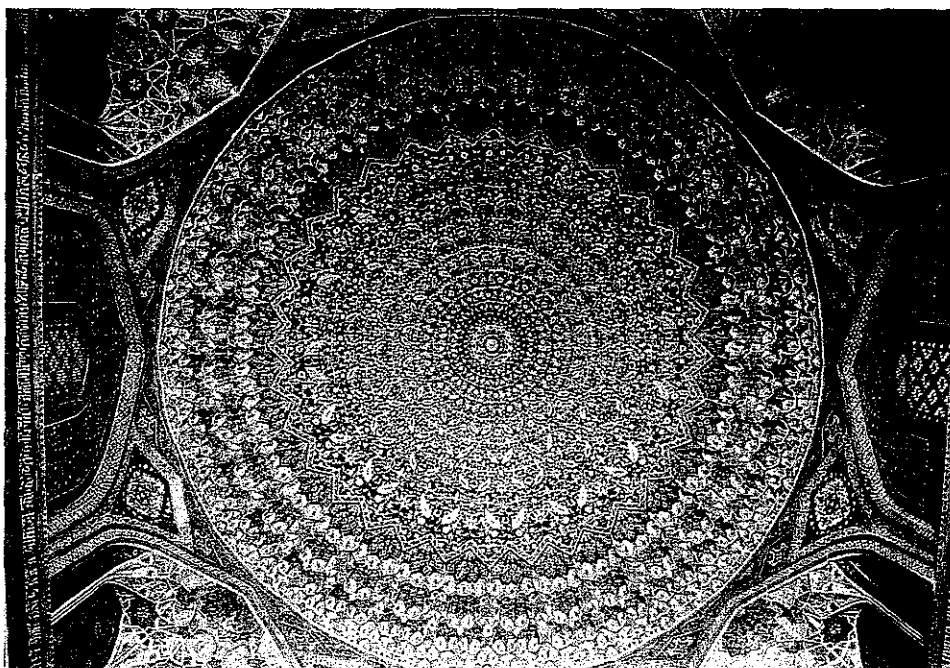


ウズベクツーリズム  
モサマルカンド支部

ティラカリメドレセ



レジスタン広場



ティラカリメドレセ  
内部



## 目 次

I 調査団の概要 .....	1
(1) 目 的 .....	1
(2) 背 景 .....	1
(3) 団員構成 .....	1
(4) 調査日程 .....	2
(5) 対処方針 .....	6
II 観光開発の現状 .....	8
(1) 観光開発／マーケティング政策 .....	8
(2) 各観光資源の概要 .....	14
(3) 観光インフラの整備状況 .....	18
(4) その他援助機関の動向等 .....	19
III 調査結果の総括 .....	22
IV 参考資料	
(1) 1999年から2005年までのウズベキスタン観光業発展国家プログラム (1998年・ウズベクツーリズム)	
(2) 平成13年度 研修員募集要項 (G I = General Information)	
(3) 平成13年度 研修実施要領	



# I 調査団の概要

## 1 目的

観光業に関係する政府機関、民間企業、NGO 等との意見交換や、現地の観光資源の視察を通じ、研修に対する先方のニーズを調査し、効果的な研修実施に資する情報を収集する。

## 2 背景

1991年にソ連邦からの独立を果たしたウズベキスタンは、従来の中央計画経済体制から市場経済体制への移行の道を歩んでいる。しかし、経済構造はソ連時代と変わらず綿花と関連産業、金や天然ガスなどの天然資源の一次産品に強く依存しており、天候や国際市場の動向に影響されやすい脆弱な面を持っている。従って、今後、中長期的に安定した経済発展を図るためには、産業構造の多様化への取り組みが必要となる。

産業の多様化を志向する中で、サマルカンド、ブハラ、ヒヴァ等、シルクロードを代表する史跡を生かした観光産業には期待が寄せられているが、サービス、インフラ整備、マーケティングはソ連邦時代から大きな変化はなく、国際水準に達しているとは言い難い状況にある。

## 3 調査団の構成（担当業務、氏名、所属、役職）：

- |          |       |  |
|----------|-------|--|
| (1) 総括   | 小池 芳一 | JICA 大阪国際センター業務課 課長代理                    |
| (2) 研修計画 | 八尾 均  | 財団法人なら・シルクロード博<br>記念国際交流財団<br>文化事業課 課長補佐 |
| (3) 観光開発 | 中島 敬介 | 奈良県企画部文化観光課<br>観光振興第一係長                  |
| (4) 人材育成 | 福西 清美 | 奈良県企画部国際課 国際交流係長                         |



#### 4 調査日程

Date	訪問機関・面談者	調査事項等	備考
1. 9月8日(土)	タシケント		
12:00	関空発 (HY526)		
16:25	タシケント着		Intercontinental Hotel
2. 9月9日(日)	タシケント		
終日	市内観光施設	観光施設の現状調査	Intercontinental Hotel
3. 9月10日(月)	タシケント		
10:00	JICAウズベキスタン事務所 (新納所長)	調査日程打ち合わせ	
11:00	在ウズベキスタン日本国大使館 (大野書記官)	表敬、調査目的説明	
12:00-13:00	EU-TACIS プログラムウズベキスタン事務所 (Peter Reddish リーダー)	活動内容調査	
15:00	対外経済省 (Islamhodjaev 次官)	表敬、調査計画説明	
16:00	ウズベクツーリズム 国営観光公社 (Khusanbaev 総裁)	表敬、調査目的説明、 事業概要調査	Intercontinental Hotel
4. 9月11日(火)	サマルカンド		
9:00	陸路にてサマルカンドに移動		
14:00	サマルカンド着		
16:00	ウズベクツーリズム サマルカンド事務所 (Ilhom Sadullaev 副所長)	表敬、活動内容調査	Hotel "Afrosiab"

5. 9月12日(水)	サマルカンド		
9:00	サマルカンド観光施設 (Ilhom Sadullaev 副所長)	観光施設の現状調査	
15:30	ホテル、B&B (BPW,)	現状調査	
17:00	サマルカンド観光高校 (Faiziev 副校長)		
18:00	サマルカンド トレーニングセンター		Hotel "Afrosiab"
6. 9月13日(木)	ブハラ		
9:00	サマルカンド、B&B (Timur the Great, HRUKAT, HASANOV)	現状調査	
9:00	陸路ブハラに移動		
14:00	ブハラ着		
15:00	ブハラ観光施設	観光施設の現状調査	Hotel "New Bukhara"
7. 9月14日(金)	ブハラ		
10:00	ウズベクトゥリズム ブハラ事務所 (Nazarova 人事部長)	表敬、活動内容調査	
11:30-15:00	ブハラ観光施設	観光施設の現状調査	
15:00-18:00	ホテル、B&B (AKBAR, SIYAVUSH, EMIR)	現状調査	Hotel "New Bukhara"
8. 9月15日(土)	ウルゲンチ		
10:00	サマルカンド発 (HY1326)	移動	
11:15	タシケント着		
13:00	タシケント発 (HY1057)	移動	
16:15	ウルゲンチ着		
17:00-18:00	ウズベクトゥリズム ホレズモ事務所 (Ravshanbek Sh. Kurbanov 副総裁)	表敬、活動内容調査	"Jaihun" Hotel

9. 9月16日(日)	ヒヴァ		
8:30	陸路ヒヴァに移動		
	カラカルパクスタン自治共和国(州)の宿泊施設(ユルタ)	現状調査	
15:00	ヒヴァ ツーリストインフォメーションセンター (Odilbek E. Rakhimov 所長)	表敬、活動内容調査	
16:30	ヒヴァ観光施設	観光施設の現状調査	ARKANCHI Hotel
10. 9月17日(月)	タシケント		
9:30	ウルゲンチ発(HY1058)	移動	
11:35	タシケント着		
15:00	タシケント市役所 (Ikramov Rikhisitulla 副市長)	表敬、 市役所の役割調査	
16:00	団内打ち合わせ		
22:50	中島団員帰国(HY611)		Intercontinental Hotel
11. 9月18日(火)	タシケント		
10:00	タシケント国立経済大学 (Raimjon Kh. Alimov 学長, Irmatov Muhammadbek 観光学部学部長)	授業内容調査	
11:15	タシケント商業観光高校 (Ahmedov Holmat Isakjanpvich 校長)	授業内容調査	
12:00	在ウズベキスタン日本国大使公邸 (中山大使)	調査概要及び対処方針(案)の報告	
14:30	ウズベクツーリズム人材開発センター (Tursunov Rahim Tursunovich 所長)	事業内容調査	
16:00	ウズベキスタン国営航空 (Ruzmetov Arslan 社長)	観光事業内容調査	Intercontinental Hotel

12. 9月19日(水)	タシケント		
10:00	UNDP (Florida Perevertailo プログラム調整官)	事業内容調査	
10:30	タシケント国立東洋大学 (日本語学科) (Djabbarova 学科長、菅野玲子教師)	授業内容調査	
15:00	IFC (世界銀行ウズベキスタン駐在員事務所) (Elbek Rikhsiyev 審査官)	事業内容調査	
16:30	大臣会議社会プログラム調整局 (Djuraev 調整官)	調査概要及び対処方針 (案) の報告	
18:00	JICA ウズベキスタン事務所 (新納所長)		Intercontinental Hotel
13. 9月20日(木)	タシケント		
10:00	ウズベキスタン芸術院ハムザ研究所 (Akbar Khakimov 研究所長)	帰国研修員訪問調査	
11:00	ウズベクツーリズム国営観光公社 (Khusanbaev 総裁, Abdullaev 副総裁)	調査概要及び対処方針 (案) の報告	
14:00	団内打ち合わせ		
16:30	サイラム旅行社 (Rustam Mirzaev 社長)	民間旅行社の現状調査	
18:00	JICA 新納所長	最終報告	
23:00	タシケント発 (HY531)		機中
14. 9月21日(金)	帰国		
08:00	バンコク着		
09:15	バンコク発 (JL728)		
16:35	関空着		

## 5 対処方針

### (1) 協力期間及び定員

5年間（平成13年度～平成17年度）、毎年6名（5年間で合計30名、ただし、平成14年度以降は予算状況等により、変更もある。）

### (2) 研修員の資格要件について

#### 1) 職業（学歴・職歴）

政府機関職員、民間企業、NGO等が想定されるが、初年度は幅広い範囲から招へいする。（各機関の情報を収集する。）

#### 2) 役職・年齢

実務に精通しつつ、ある程度意思決定のできる層を対象し、それに適当な役職、年齢を調査する。

#### 3) 使用言語

ロシア語とする。

#### 4) その他

軍籍にないこと、心身ともに健康であることが必須。

### (3) 研修期間および実施時期

平成13年度は、平成14年1月中旬来日、3月下旬帰国とする。

原則として次年度以降も実施時期は同じとする。カリキュラム案は別添の通り。

### (4) コースの趣旨・コース名称について

本研修は、国別援助計画の重点項目のひとつである「産業構造の多様化」に資することを目的とする。特に、地方都市において観光分野の開発には大きな期待が寄せられており、コース名称も、地域開発の観点からの観光開発であることが認識できるものが望ましい（「観光を通じた地域開発」等）。

### (5) 調査に当たっての留意事項

#### 1) 官と民の関係について

観光産業においては、政府が主導的に行うべき部分と、民間の競争原理に任せの方が効率的な場合があり、また、海外からの投資も重要である。今回の調査では、官民の役割の現状と、官民それぞれの立場で検討している将来展望について聴取し、本邦の研修でも先方の将来展望に沿った内容にする必要がある。そのため、人材育成において、現在のところ官民がそれぞれどのような方法を採用し、また、効果を挙げているかを考慮する。

## 2) 観光開発の負の影響への対策について

観光開発が進むにつれて、文化遺産の損傷、環境汚染、観光客をねらった犯罪などの負の効果が現れる可能性がある。これらに対するウズベキスタンの現状、今後の取り組み方針についても考慮に入れる。

## 3) 地場産業と観光の関係について

観光産業を産業構造の多様化、地方経済の活性化につなげていくにあたり、旅行者のための土産物の販売は大きな収入源となり得る。各地場産業が観光とどのような関係があるかに留意する。

## II 観光開発の現状

### 1 観光開発 / マーケティング

#### (1) 対外経済省

- ・ 本調査団の訪問目的を説明
- ・ 1999年から「ウ」国は地域の観光開発が経済開発の一翼を担うとの考えから、開発の重点を地域において特にその為の人材育成に取り組んでいる。JICAの調査団は最も時機を得たものである。

#### (2) ウズベクツーリズム・国営観光公社

- ・ 国営企業である本公社はソ連邦時代の現ウズベキスタン共和国にあった旅行公社“INTOURIST”、“SPUTNIK”およびその他の旅行会社をベースに1992年7月27日の大統領令に基づき創立された。
- ・ 主な目的は観光開発における全体の政策を遂行及び調整である。
- ・ 具体的な業務は、観光開発における全般の政策を実行すること、観光インフラストラクチャーの整備、観光開発に係る海外からの投資計画の開発、観光分野の国際関係の確立、国際観光機関における「ウ」国の利益代表。

#### (3) ウズベクツーリズム・サマルカンド事務所

##### <サマルカンド州の観光概況>

- ・ 旧ソ連時代の1989年には、外国人観光客数は13万人に上ったが、(ホテルのキャパシティが大きくなったにもかかわらず)2000年には5万8千人へと激減した。
- ・ その大きな理由は、優秀なツアーオペレーターの不足によって、サマルカンドがアトラクティブでなくなったことによる。

##### <事務所の直営事業>

- ・ アフロシャブ・ホテル(500人収容)、旧アフロシャブ・ホテル(368人収容)オーストリアと合併で今年建設セントラル・サマルカンド・ホテル(240人収容)など、5つのホテル(主要総数は1,000人程度)を経営している。
- ・ 2000年の法改正により、観光企業の認証・許諾機関であるウズベクツーリズムは、ツアーオペレーターの仕事ができない。

##### <支部としての役割>

- ・ この事務所のウズベクツーリズムの支部としての主な役割は、サマルカンド州内の観光企業\*（1）に観光関連法の内容や改正を周知させること、外国でのプロモーション（ロシア、アメリカ、日本の大阪でも行っている）、旅行者の安全確保等、及び各企業のコーディネーションである。

\*（1）州内には70の観光関連の企業があり、全てが民間会社である。そのうち、旅行社は45社、ツアーオペレーターは約200人で、ウズベクツーリズムがライセンスを発行している。形式的には、許可権限はウズベクツーリズムでなく、大臣会議にあるが、実態的権限はウズベクツーリズムにあり、大臣会議は単なるオーソライズの間と考えてよい。

- ・ 具体的には、民間企業従事者のトレーニング、国際観光フェアの開催・出展などであり、各企業の経営には何の関与もしていない。
- ・ 民間企業従事者のトレーニングについては、ドイツの合弁観光高等学校の中に、教育センターがあり、そこでリカレント教育\*（2）を行っている。

\*（2）ツアーオペレーターは2ヶ月、ホテルの料理人は3ヶ月コース。講師はフランス、スペイン、イタリアなどから招いている。またウズベクツーリズムの職員が講師となることもある。

#### <民間企業からの上納>

- ・ ウズベクツーリズムは、国からの予算をもらっていないので、民間企業から利益の10%の上納を受けている。上納金は、を支部を経由して、ウズベクツーリズムに本部が吸収する仕組みになっている。

#### <地方政府との関係>

- ・ 観光担当セクターは市役所（及び州政府）にはない。市の社会経済センターが、スポーツ関係、学校教育、保健衛生とともに観光を担当している。
- ・ 地方政府は、ほとんど観光に関与しておらず、トイレ整備等の旅行者利便施設の整備については、例えばサマルカンド広場での整備は民間企業が整備費全額の500万スム（公定レートで5万米ドル）を拠出した。
- ・ ただ、観光関連の法律改正については、形式的には、ウズベクツーリ



ズムの提案によって、地方政府を經由し、中央政府によって決定される。

#### <所感>

- ・ ウズベクツーリズムは、(1)本来、政府であるべき民間企業の許認可・指導監督権者としての立場、(2)一企業であるホテル経営者としての立場、(3)日本での観光連盟（協会）にあたる各企業の利益調整団体としての立場を併せ持っている。
- ・ 主要なホテルはウズベクツーリズムの独占経営であり、ツアーオペレーター等を束ねる民間企業団体協議会は存在するようであるが、その会長はウズベクツーリズムから派遣されている。また、トレーニングセンターの責任者もウズベクツーリズムの「出向者」と考えられる関係者であり、さらに、地方政府も観光にはほとんど関与していない。
- ・ このことから、法の要請により、表面的には、ウズベクツーリズムによる独占体制は解消されているが、実態的な支配は以前同ツーリズムによって行われていると思われる。

#### <観光高等学校>

- ・ 実務教育中心
- ・ 一般教養過程が22科目、専門過程が15科目、6コースに分かれている。
- ・ 建物は2001年に、ドイツの資金援助により建設。
- ・ 現在は、1年生（275名、うち175名は、契約学生（無試験））、2年生（100名）のみ。
- ・ 組織としては、校長の下に4人の担当副校長（①「ウ」国の文化・歴史担当、②観光の専門技術（料理、ガイド等）、③一般教養、④総務）がいる。
- ・ ドイツのホテルで実地研修も実施している。

#### (4) ウズベクツーリズム・ブハラ支部

##### <ブハラ事務所の役割>

- ・ ブハラの民間企業・ホテルの監督
- ・ 本部からの指令の周知、ガイドラインの徹底、新しい観光パッケージ等の相談に応じることなど。
- ・ 民間企業等はスタッフが少ないので、外国企業とのコンタクトを集約的にとっている。

- ・ 民間企業等の経営相談
- ・ 国際観光フェア出展のコーディネートなど
- ・ 人材教育。支部のトレーニングセンターで、タシュケントから講師を招き、ツアーガイド、エージェント等の再教育を実施。

#### <行政との関係>

- ・ 市には、観光担当の副市長がおり、親しい協力関係にある。
- ・ 毎年、冬には市、ウズベク・ツーリズム、ブハラツアーリスト（※後述）の代表が集まって、観光資源の調査及び報告会をし、修復計画をつくる。
- ・ 修復に要する経費は国の支出する。

#### <他の観光団体、①ブハラツアーリスト(株)>

- ・ 国、ウズベク・ツーリズム、社員が出資。
- ・ 350人のスタッフがいる。
- ・ ホテル、レストラン、観光バス、ランドリーの各関連会社が加入している。
- ・ マーケティング行っている課もある。

#### <他の観光団体、②観光協会>

- ・ 16のB&B、13の観光会社で構成。
- ・ 入会金、メンバーシップで運営。

#### <所感>

- ・ 組織としては、ウズベク・ツーリズム支部、ブハラツアーリスト(株)、観光協会が並存しているが、後二者の代表はウズベク・ツーリズムの職員であり、実質的にはウズベク・ツーリズムの独占体制である。

#### (5) ウズベク・ツーリズム・ホレイズム支部

##### <概要>

- ・ ホレイズム州は、海外からの多くの観光関連投資を受ける重要地であるので、ウズベクツーリズム本部副総裁（の一人）が支部長を兼務している。
- ・ ウルゲンチではドイツとの合弁ホテル（11百万ユーロ）、ヒバではフランスとの合弁ホテル（17.5百万ドル）が建設中であり、各400人以上のスタッフが必要。
- ・ ホレイズム州には、400以上の観光会社（民間）があり、支部長は観光

協会長も兼ねている。

#### (6) ヒバ・ツーリスト・インフォメーション・センター

##### <概要>

- ・ NGO として2001年2月に設立。
- ・ 設立目的は、①外国からの投資を呼び込むこと、②人材開発。
- ・ TACISのプログラムに沿って、11月に、インフォメーション・センターを設置。
- ・ メンバー4人が、デンマークで11週間の経営マーケティングを研修した。
- ・ センターの主要な事業は、セミナー、観光市場のモニタリング、コンサルティングを通して観光開発を行うことであり、そのための情報収集や研修を行う。
- ・ 運営は、ホテルやウズベクツーリズムからのメンバーシップ（50,000スム）で行っている。
- ・ ヒバの観光客は、昨年10,000人、今年15,000人の見込みである。目標は100,000人である。
- ・ ヒバには、多くの歴史文化資源があるが、多くが未活用である。
- ・ 観光客には事前に、その情報が与えられていないし、当地に来て情報も不足している。
- ・ また、有能な人材が不足しており、トレーニングが急務である。

#### (7) タシュケント市

##### <概要>

- ・ 観光に関連することは全て、ウズベクツーリズムが行っている。
- ・ 1999年まで、市役所に観光担当セクションがあったが、その機能は全て、現在ウズベクツーリズムに吸収されている。
- ・ 市との調整関係はない。
- ・ 当時は、5～6人のスタッフで、①観光客受け入れ、②組織間コーディネートを行っていた。
- ・ ウズベクツーリズムの独占状況は、好ましくないと感じている。
- ・ しかし、仮に、市役所の人間が、今回の日本での研修に参加するには、問題がある。

- ・ 市役所に観光担当セクションをつくる必要が出てくるが、ウズベクツーリズムの機能と重複してしまうということだ。
- ・ 市役所（行政内部）に、観光担当セクションをつくるのは、かなり時間のかかる作業になるだろう。
- ・ 日本の援助は非常な貴重なものであり、大きな恩恵を受けている。
- ・ 特に、日本とウズベキスタンが、よく理解し合えるためには、観光や文化の交流が重要である。

#### (8) ウズベキスタン国営航空

- ・ 1992年1月、大統領令によって設立された。設立以来、「安全性、安定性、快適さ」を追求した輸送サービスを提供している。
- ・ 2001年5月にウズベキスタンから日本（関西空港）に週一回の定期便が開設された。今後、大阪2便、成田1便を事業化する予定である。
- ・ 観光開発のためには、サービス改善が必要という見通しから、航空本部に観光課をつくり、また、航空サービスの充実のために、トレーニングセンターで2200人のパイロット養成、200人にパソコン講習を実施し、技師トレーニングセンターで2600人養成している。
- ・ 日本からリーダーズリーダー養成のために専門家派遣を強く要望している。

#### (9) 大臣会議社会プログラム調整局

- ・ ウズベキスタン人は「もてなす心」があると考えている。
- ・ 「観光開発」は国家プログラムであり、結果、観光高等学校、トレーニングセンター、観光学部ができた。
- ・ 研修プログラムもあり、ウズベクツーリズムと共同で「レンタカーサービス」「ホテルサービス」に関してギリシャ、エジプトでそれぞれ研修を受講した。また、経済大学からも、トルコ、マレーシア等に研修に行かせている。
- ・ 観光に関わる民間会社が急増し、それにともない「シルクロードツアー」も多くある。
- ・ ウズベクツーリズムがより多くの情報を持っている。人材開発すべき人材はウズベクツーリズムはもちろん観光協会、NGO団体にも多くいる。

## 2 各観光資源の概要

### (1) タシケント

ウズベキスタン共和国の首都、人口230万人は（国総人口2,370万人の約10分の1）、中央アジアで唯一の地下鉄が走る大都市である。真つすぐ延びる道路に近代的な大きなビルが整然と建ち並んでおり、ポプラ・プラタナスの街路樹が植えられ清潔な町である。町の中は、警官の姿がやたらと目立ち、シルクロードの面影はあまり感じない。治安はよく、安心して街中を歩ける。

天山山脈より流れるシルダリア支流のチルクル川の豊かな水に恵まれ、古くから商隊の街として開かれたオアシスの都市、2000年前は「チャチ」と呼ばれ、11世紀頃から「タシケント（石の町）」という名で呼ばれるようになり、このころがシルクロードの中継点として最も栄えた。

モンゴル軍に破壊された後、ティムール帝国、シャイバニ朝時代になって復興し、1809年にコーカンド・ハーン国の支配下に入った頃には、全長25kmの城壁に囲まれた人口10万人の都市に成長した。しかし、1865年に始まった帝政ロシアによる支配が、町の様子を一変させ、瞬く間に整然と区画された。1966年に直下型大地震で、中心部は壊滅的な打撃を受けたが、大復興を成し遂げ、近代的都市に生まれ変わった。

観光資源は、中央アジアのイスラム教総本部がある16世紀シャイバニ朝に建てられたバラク・ハーンのメドレッセ（神学校）や同じく16世紀に建てられたクカルダシュ・メドレッセ、職人たちの工房になっているアブドゥールハシム・メドレッセ、旧日本兵が強制労働で造ったナヴォイ劇場、テレビ塔、日本庭園等がある。

博物館施設としては、ウズベキスタン歴史博物館（修復中で閉館）、ウズベキスタン美術館、ナヴォイ文学博物館、ウズベキスタン工芸博物館、ティムール博物館等がある。

巨大バザールも観光の一つで、日常生活に必要なものが全て売られており、かけ声・臭い・試食など、にぎわいの雰囲気味わえる。香辛料・野菜・果物・ナッツ類・ドライフルーツ・肉類・ハムソーセージ・チーズなどそれぞれのブースにずらっと並んでいる。その周辺では衣類・石けん等の日用品・タバコ・貴金属類装飾品などが売られている。

ただ、内陸国であり、冷凍設備が整っていないのか、海の魚貝類は見かけない。レストランやホテルの食事もしャシリク（羊肉等の串焼き）をはじめとした肉料理が主流で、魚料理はほとんどない。日本食のレストランはないが、韓国料理・中華料理店はある。

ホテルは、施設設備の整った高級ホテルや値段相応の安いホテルもいろんなタイプがある。我々の宿泊したホテルでは、ホテル内外で同じ飲み物料金が、20倍も

格差がある。宿泊費は米ドル払いのみとなっているが、朝食代は現地通貨のスム払いでも可であり、為替交換レートの違いから、米ドルで払えば日本円で約2,200円のところ、スムの場合、約1,000円と矛盾が生じている。

## (2) サマルカンド

タシケントから車で約300km・約4時間で着く。道路の舗装整備は、ほぼ行き届いており8車線の一直線の平坦な道が永遠と続く。このため、車窓からは、360度の地平線が見渡すことができ、両側に広大な綿花の畑が一面に広がり、時折、赤や青の民族衣装を着た十数人の農婦たちが、手作業で綿摘をしている姿が眺められ、これも日本では味わえない風景である。

サマルカンドを一口に言えば、「ブルーの町」。紺碧のタイルを貼り詰めたドームと抜けるような青空とが競演している町である。しかも歴史は古く、紀元前4世紀に、アレクサンドロス大王が遠征したとき、実に美しいところだと、驚嘆したという。その繁栄の担い手はソクド人で、商才と工芸技術に長けており、その後、様々な王朝の支配を受けながらも、数世紀にわたって営々と築き上げた。しかし、1220年のモンゴル軍チンギス・ハーンとの戦いで町の中心部は廃墟となる。そのサマルカンドを蘇らせたのがチムールであり、彼は帝国各地から職人や、建築技術者を集め、現在の魅力ある町に復興させた。それから600年を経た現代も、シルクロードファーンを釘付けにする都市である。

主な観光資源としては、コの字形に建てられた3つのメドレセのあるレギスタン広場、最も古い建造物のウルグベク・メドレセ、その向かいのライオンが描かれたシェルドル・メドレセ、この奥では、夕方から有料(6ドル)で民族舞踊団の興行がされており、日本語の解説書が手渡された正面にはティラカリ・メドレセで金色の輝く礼拝所がある。

チムールの一族が眠るグリ・アミール廟、中央アジア最大のビビハニム・モスクで現在も修復工事が行われている。霊廟が一直線に建ち並ぶ死者の通りシャーヒズィンダ廟群、ウルグベク天文台跡、ソクド人の壁画が見物のサマルカンド歴史博物館がある。

ホテルは、新しいホテルが整備されてきている。それに加え、B&B(民家を改造したゲストハウスで中庭があり葡萄が植えてある、部屋数は10室程度、約20~35ドルで宿泊できる民宿)も数軒あった。長期間滞在には、施設の整った高級ホテルより、このB&Bで宿泊した方が、価値があるように思えた。

## (3) ブハラ

サマルカンドから車で、約270km 約3時間半で着く。道路舗装設備も良く、

6～8車線の快適な道路で、当初は地平線が綿花の畑、ブハラに近づくにつれ、道ばたで、リンゴ・スイカ・メロン（ハミウリ）が売られている。遠くに砂漠の山々がかすかに見え、それがだんだん近づいてくる。

ブハラは、1993年に世界遺産に登録された。2500年以上の歴史を誇る町で、その旧市街には、中央アジアでも最も良い状態で中世の町並みが保存されている。「聖なるブハラ」、あるいはサンスクリット語で「修道院」を意味しており、中央アジアのみならず、イスラム世界全体の文化的中心地として繁栄を誇った町。黄金期は9世紀のサマン朝時代から始まり、周囲のオアシスの都市を結ぶ交易の十字路（南北にテルメズとヒヴア：パキスタンやインドに通じる、東西にサマルカンドとメルグ：東は中国や日本・西はシリアやイタリアに通じる）として栄えた。しかしその繁栄も、1220年のチンギス・ハーンの襲来で廃墟となってしまった。16世紀のシャイバニ朝の時代になって、多くのモスクやメドレセ（神学校）が建造され、宗教的充実と相まって再び蘇った。今のブハラは、このころに完成して以来、今日までほとんど変化していないという。

主な観光資源は、高さ46mもあるブハラのシンボルのカラーン・ミナレット、イスラム教義に反して2羽の鳳凰が白い鹿をつかみ顔が描かれた太陽に向かって飛んでいる絵があるナディール・ディヴァンベギ・メドレセ、砂の中から発見されたマゴキ・アツタリ・モスク、288もの丸屋根のあるカラーン・モスク、ソ連時代にも唯一活動していたミル・アラブ・メドレセ、中央アジア最古の神学校ウルグベク・メドレセ、イスラム建築の歴史を物語るアブドゥールアジス・ハーン・メドレセ、ブハラ・ハーン専用のモスクのバラハウズ・モスク、歴代ブハラ・ハーンの居城アルク城、中央アジア最古のイスラム建築イスマイル・サマニ廟などがある。他の観光都市と違う点として、町の中にハウズ（オアシスの池）があり周りには、市民の情報交換の場となっている。また、ブハラ民族舞踊ショーが、18時30分から定期的ではないが、ガウクシャン・メドレセで行われており、夕食を食べながら、民族楽器の演奏や歌・踊りを楽しむことが出来る。

ホテルは、施設・設備・サービスとも中クラスであるように思えた。民家を改造したペンション風のB&Bホテルが多くあり、部屋の調度品も豪華で清潔なところもあった。ブハラ全体の宿泊定員はサマルカンドに比べ、少ないようで、これからのホテル建設を期待したい。

#### （4）ウルゲンチ・カラカルパクスタン自治共和国

ブハラからウルゲンチへは、車でキジムクル砂漠を北西に450km 約7時間かかることから、一端、飛行機でタシケントへ戻りタシケントからウルゲンチ空港のルートをとった。このキジムクル砂漠をひた走るのも、日本人には経験の出来ない

観光資源とのことであるが、途中、トイレの施設がなく、青空で男女に分かれ用を  
足す場所があるとのこと。

ウルゲンチは、35km 南西にあるヒヴァへの起点となる小さな町で、町自体には見るべきものはない。

ウルゲンチでの宿泊したホテルの外観は大規模で近代的だが、ホテル内は老朽化  
しており、廊下は幽霊屋敷のように暗く、室内には真ん中に大きな電気の入っていない  
冷蔵庫がオブジェのように置かれ、浴そうは汚く、ぬるいお湯しか出ないし、  
お湯を溜める栓がない。便器も汚く、水が止まらないで常にチョロチョロ流れてい  
て、やかましくて寝られない、ベッドのシーツは、冷たく感じられ、周りの調度品  
がホコリで汚れているなど散々なホテルであった。近くに、新ホテルが建設中で、  
完成が待たれる。

ウズベキスタン国旗に12の星と1つの月が描かれているが、星は州で月はカラ  
カルパクスタン自治共和国、この共和国にアヤズ・カラ（都城の跡）があり、ウル  
ゲンチから車で北東に約2時間、アムダリヤ川に架かる浮き橋をゆっくり渡り、キ  
ャラバンサライの門をとおりひた走る。小高い砂漠の丘の上に城壁がみえる。これ  
がアヤズ・カラ。山麓あたりにユルタ（地方によりパオヤゲルと言う）の移動式簡  
易宿泊施設があり、夏期のみオリジナル砂漠体験ツアー（このユルタに泊まりラク  
ダにまたがり旅をする）が行われている。なお、このユルタの宿泊費は、3食付き  
で60ドルとのこと。

#### (5) ヒヴァ

ウルゲンチから南西に35km 車で約30分、アムダリヤ川下流のオアシスの町。  
このホレズム地帯で人間が住み始め農業を始めたのは、4～5千年前と歴史は相当  
古い。8世紀～16世紀頃は、小さな中継の町にすぎなかったが、17世紀になっ  
てアムダリヤ川の水系が変わり、ヒヴァに首都が移され、ホレズムの政治、経済、  
宗教の中心地になった。

その後ホレズム随一のイスラムの聖都となり、町は外敵からの侵入を防ぐため、  
二重の城壁で守った。外側はディシャン・カラという全長6km の城壁であり、内  
側はイチャン・カラという高さ8m・厚さ6m・長さ2100mの城壁に囲まれた  
町である。1990年に、この内城のイチャン・カラ全体が世界遺産に登録され、  
見所がここに詰まっている。観光資源としては、イチャン・カラ全体であるが、主  
な見所として西門のアタ・ダルヴァザ門、火薬庫や絹のお札が造られたクフナ・ア  
ルク、未完成の彩釉タイル模様で覆われた大ミナレットのカタル・ミナル、神学校  
がそのままホテルになっているムハンマド・アミン・ハーン・メドレセ、大臣で詩  
人であり哲学者として尊敬された者等の墓パフラヴァン・マフムド廟、奴隷に建て



させたシュルガル・ハーン・メドレセ、ヒヴァで一番高い塔イスラム・フッジャ・ミナレット、多柱式建築で彫刻された柱が並ぶジュマ・モスクとミナレット、貯水池が大切に保存されているクトウル・ムラド・イナック・メドレセ、美女に囲まれてハーレムで暮らしたハーンの宮殿タシュ・ハウリ宮殿、など。

宿泊施設数が少なく、しかも小規模である。今後、観光客の動向等を的確に把握・分析し、計画的なホテル整備の促進を図る必要がある。また、水道水に塩分が含まれており、環境問題を含め、抜本的な改善対策を検討する必要がある。

### 3 観光インフラ整備状況

#### (1) 人材育成

- ・観光開発の国家プログラムが専攻し形態が整いつつあるが、観光開発が市場経済発展のために必要な分野であることの国民の認識を高める必要性と、観光開発に携わる国民に対して、観光開発分野別、また、総合的な人材育成の必要性は高い。

#### (2) サマルカンド観光高校

- ・1999年7月議会法令によって高資格の観光専門家育成とサマルカンドのレクリエーション整備を目的として、設立された。
- ・観光事業、ホテル業務、レストランビジネス、理容・美容、会計等それぞれの専門家を育成している。

#### (3) タシケント国立経済大学観光学部

- ・1931年設立、今年70周年であり、10月には記念行事として「国際会議」を開催する。
- ・観光学科は1999年大臣会議の指定により開設した。以前は文化大学で人材育成を行っていた。  
学科からの卒業生はまだなく、2002年に一期生が卒業する。
- ・ウズベクツーリズムと協力しており、ウズベクツーリズムの総裁は学科長である。  
現在の学生数は265人であり、学生寮があるので全国から受け入れている。
- ・トレーナーズトレーナーのニーズはあり、教授を教育したい。
- ・文化大学で人材育成を実施していたときの実習先は、一般サービス分野のみであったが、現在は、民間企業、その他観光会社等で実習している。

#### (4) タシケント商業観光高校

- ・ドイツから教育設備整備の協力を受けて設立され、1999年大臣会議に指定される。
- ・設立目的は、中小企業の専門家育成や、ホテルサービス、観光サービス、レストランサービス、それぞれの専門家育成、ツアーオペレーター、ガイドの養成である。
- ・3年制であり、3年目に専門コースを選択する。

#### (5) ウズベクツーリズム人材観光センター

- ・現在は、マネジメント科、ガイドツアーオペレーター科があるが、新たに観光法律科を創る計画がある。観光法律学科では一般法律を学ばせる。
- ・1999年大臣会議のより高いサービスの観光開発をするため指定されたが、現状では、観光開発されていない。
- ・人材育成は不足しているため、今まで観光分野で働いていた人の再教育と、ガイド、ツアーオペレーターの資格取得できるように5ヶ月コースと9ヶ月コースがある。
- ・レベルの高い教師を必要とするため、大民間企業の人や、経済大学の先生が教えている。また、実習では、ウズベクツーリズムが協力体制にある。
- ・先生が経験不足であるので研修が必要であり、他の国の手法を知りたい。

### 4 その他、援助機関の動向等

#### (1) E U-T A C I S プログラム ウズベキスタン事務所

- ・T A C I Sはヨーロッパ共同体の組織で、ロシアと独立国家共同体に対する技術援助機関である。

「各国の援助機関の現状」と「観光分野に関わる人づくりの協力とはどのようなものであるのか」について、T A C I Sは観光分野での協力は要らないと考えている。なぜなら、観光客は多く、「ウ」国には魅力があるからである。仏、独、伊国からも観光客は多く来ており、どの国もプロモーションがうまい。

- ・観光の時期は春と秋がはじまる時期がよい季節で、観光客の年齢は、ツアー客は退職した人が多く、若者はキャンプが多い。高齢者は暑い気候はなじまない。
- ・観光の場所はサマルカンド、ヒバア、ブハラ（ツアーは名所をいれている）であるが、ツアーは旅行価格が高い。
- ・ヒバアの民宿（ホテルが1つしかない）へは、バスで来てバスで帰り、他の観光客と一緒にならないよう、小さいホテルに泊まる。
- ・T A C I Sは、ホテルのサービスを良くするための人材育成については、主な町の主なホテルは、ウズベクツーリズムが所有しているため何もしていない。

しかし、中小企業振興のために、2つのプログラムがあり、小さいホテルをつくりたい人等に教えている。1つは、マーケティング能力を高めることであり、1つは、ビジネスコミュニケーションを広げるためにセンターをつくったが、「ウ」国の人には、利益が早急に得られないことや、交通の便が悪いため集まらない。

- ・現地で利益に対するサポートしたり、現地の失業者を育成するなどのネットワークを可能な範囲でつくった。貧しい地域は国の施策とはずれている。
- ・農業者が多かったので土産物の製造とかが多く、それをサポートしている
- ・中小企業の育成促進に力を入れている。人材育成は必要であるが、「ウ」国の変化は遅い。しかし、「ウ」国は美しいポスピタリティーがあり、お客好きの国民である。「ウ」国は不景気であることを国民に認識させ、観光開発を推進していく。

## (2) UNDP

- ・直前に相手方担当者に急用が出来て、あまり時間がとれなかったが1997年にウズベキスタン政府に提出したアクションプランに基づき「ウ」側の実施が待たれるとのことであった。

## (3) タシケント国立東洋大学（日本語学科）

- ・1991年に設立された。学部は、文学部（日本語学科）、歴史部、経済部（地域・国際関係）韓国語部である。
- ・日本語学科の生徒数は、1年37人、2年39人、3年18人、4年13人で、卒業生は2574人、就職先はあまりないが、大使館への採用や、観光ガイドがある。

## (4) IFC（世界銀行ウズベキスタン駐在員事務所）

- ・B&B、民間企業への融資制度であるマイクロクレジットプログラムが1999年から計画されていたが、「ウ」側からビジネスプランの提出がないため休眠している状態である。
- また、1997年に設置されたUNDP、ウズベクツーリズム合同観光開発プログラムでのウズベクツーリズムの役割をウズベクツーリズムはまったく守っておらず、民間企業と競争していて同制度は用をなさなかった。

## (5) ウズベキスタン芸術院（ハムザ研究所）

- ・平成7年度奈良県海外技術研修員及びJICA個別研修員の帰国後の活動状況調査を行った。いずれも研修は成果があり、報告会で高い評価を受けた。奈良県の研修員は現在、ドイツに留学しているとのこと。またJICAの帰国研修員は同研究所の所長の要職にある。

- ・芸術院は歴史芸術課（8人）とウズベキスタン芸術課（6人）の2課がある。

#### （6）サイラム旅行社

- ・ウズベクツーリズムとは関係のない、政府から許可された100%民間企業体である。そのため、自身で政策を探し、プランを創る。
- ・6ヶ国言語対応でき、その中でも日本語は重要である。何故なら、日本観光会社協会のメンバーであるからである。
- ・観光分野においての問題は、ウズベクツーリズムが独占していることと、観光シーズンになればホテルが不足することである。
- ・民間観光協会を2年前に設立し、民間企業が力を合わせてウズベクツーリズムと交渉しようとしたが、協会長がウズベクツーリズムの副総裁であり、ウズベクツーリズム総裁が協会に対して絶対的な発言権を有している。
- ・ウズベキスタン国営航空会社との関係は、外客を多く受け入れるという目的は同じだが、ツアーパッケージを造る時に摩擦が生じることがある。

### Ⅲ 調査結果の総括

#### 1 総括

旧ソヴィエト連邦から独立して本年でちょうど10年を迎えるウズベキスタンは、町中いたるところに祝賀のスローガンが掲げられていた。しかしながら、今回の調査で最も強く感じられた事は、「まだ10年しか経過していないため旧ソ連時代の名残が至る所に残っており、観光分野においても実質的に政府がすべてコントロールしているのが現状」であった。1997年にUNDPが作成した観光開発計画の最もコアとなる点は、ウズベクツーリズムの業務内容（役割）を主に観光プロモーションと民営化を推進しそれらの管理監督をすることとなっているが、形式上民営化してはいるものの、事実上は民営化した会社の株を所有しておりコントロールもしている。更に、隙間的に存在するツアーコンダクター、通訳ガイド、B&B等ウズベクツーリズムを通じて大臣会議に登録した民間の弱小観光関連会社は約350社あるが、それらが加盟して出来ている「民間旅行業者協会」の会長他役員はウズベクツーリズムが指名しており、現在の会長はウズベクツーリズムの副総裁が就いている。このようにUNDPが作成した開発計画は事実上頓挫した状態となっている。

又、世銀による観光開発投資計画も、「ウ」国政府の要請で専門家を派遣し調査したが、ポテンシャルはあるものの、ウズベクツーリズムはホテルの建設はするがホテル管理をホテル業者に入札で売却するだけで、ホテルのビジネスプランがないためこれも頓挫している。

一方、1999年6月30日に「ウ」国における観光開発政策の意思決定機関である「大臣会議」は観光開発を経済開発の一環として位置づけ、特に人材養成の必要性を決定した。これを受けて国立経済大学に観光学部を創設、また各地方に観光高校を設立するとともに、ウズベクツーリズムもタシケント及びサマルカンド市内に観光関連事業従事者の再教育を主な目的としたトレーニングセンターを設置した。いずれの人材養成機関においても諸外国からの援助を受けつつ、熱心にカリキュラムの試行錯誤を繰り返しながらも教育している。

今回の調査で顕著に判明した「ウ」国における観光開発の問題点は次の点が挙げられる。

- (1) 行政組織としての観光政策が事実上ない。特に地方組織には観光行政担当すらない。
- (2) ウズベクツーリズム観光公社は監督官庁にもかかわらず営業活動をしており、それが独占状態にあるため民間との競合が実質的には存在していない。
- (3) ホテルの収容能力が絶対数不足している。
- (4) 観光関連のすべてに人材が不足している。

- (5) 観光開発のポテンシャルはどの援助機関の専門家による報告書でも高く評価されているが、具現化するための受入れ態勢並びに諸手続が煩雑で実現には及んでいない。
- (6) 観光インフラが不足している。

以上のような問題点を解決するには基本的には市場経済に対する認識を深めていかなければならないが、それは観光開発に限らず各分野での根本的な問題で一長一短では解決できない。従って、根本的な問題は「ウ」国の現実問題であり、自浄作用は当分期待することは出来ない。今後、我が国を含めた諸外国の各種援助プログラムの実施の際の外圧等により、長い目で解決を図っていかなければならないであろう。しかしながら、観光開発分野において多くの発展阻害要因を抱えてはいるが、たとえそれを解決したとしても又たとえ当分の間、解決しないとしても、経済発展のための観光開発を進めるには、観光関連に従事する人材、特に国際的なスタンダードを持った人材は全く不足しており、それらの人材養成は急務となっている。従って、今回の研修コースの実施は基本的には「ウ」国の観光開発分野のニーズに適したものといえる。

本件研修コースの実施がニーズに合ったものとしても、実施に際しては、「ウ」国の観光開発分野の抱える諸問題を勘案すると以下の点について、配慮する必要がある。

(1) 研修コースの名称と内容について

本研修コースの「ウ」国からの要請は「観光開発コース」となっていたが、

- 1) 「観光開発」というと特にホテル建設等インフラ関係を連想されること。
- 2) 観光開発を経済発展のひとつとして決議した大臣会議の担当部署は、「社会開発プログラム調整局」であり地域社会振興を図る部局であること。
- 3) 研修の主たる実施機関が奈良県であることから、地方の取り組む観光振興実施例を研修プログラムの重点に置くことが可能であること。
- 4) 「ウ」国に必要とされる人材養成分野は観光開発企画政策分野ではなく、観光企画、プロモーション及び外国からの観光客に対応出来る国際的なスタンダードを持った人材養成であること。

以上、観光開発が地域経済の発展に寄与することを計画している大臣会議の意向等前記に鑑み、本件研修コースの名称を「地域観光振興コース」とし、またその内容も、主として地域経済の活性化につながる観光振興策とし、地方行政組織、地域に根付いた観光関連NGO及び民間団体を含め、人材養成のためのリーダーの育成をはかるものとするのが適当である。

従って、研修の内容の構成は「観光振興概論」と「地域観光振興各論」に区分し、所

謂、教養科目と実践科目の構成とすることが適切である。

## (2) 研修対象者について

発展途上国における研修員の選考については、GIのTarget Group欄の指定に基づき行われているが、ややもするとミスマッチに近い研修員が推薦されてくること散見される。特に、「ウ」国の場合、我が国（西側）の援助が始まって時期がまだ浅いこと、また、中央集権になっていることに加え公務員制度が未整備であること、特定集団（クラン）で物事を決めてる現実が存在すること等から、対象となる研修員をよりはっきり明示することが必要である。

具体的には、前述のとおり、本件研修は「地域経済の活性化のための観光振興に寄与する人材養成のためのリーダーの育成」とすることが適当なので、第一回目のGIのTarget Groupには「州政府及び市役所の遺跡保存担当部局、ウズベクツーリズム観光公社の地方支部、観光高校のインストラクター、民芸品協会（「働く婦人の会」を含む）等NGO組織、民間旅行者協会会員を対象とする」と指定することとする。更に、2回目以降の研修については、第一回目の研修終了時評価の際、参加研修員も含めて協議し、カリキュラムの見直しと伴ってTarget Groupを決めていく方法をとることが適切である。

この度の調査結果の概要とそれに伴う研修計画案について、大臣会議社会開発プログラム調整局、ウズベクツーリズム観光公社、在ウズベキスタン日本国大使、JICA事務所のそれぞれに対し本「総論」に乗っ取って報告・説明した結果、研修コースの名称、研修計画内容とも賛同を得られた。特に、「ウ」側には研修カリキュラム案をロシア語（別添参照）で提示しつつ調査結果との整合性を踏まえ説明した。大臣会議からは「調査団の今回の報告は貴重であると同時に本件研修は「ウ」国にとって有益なものである。特に、概論だけでなく、実質的な研修があるのが良い。該当者の人選をウズベクツーリズム観光公社と民間旅行者協会にお願いしたら良い」とのコメントがあった。本件研修の実施の成否は究極的には目的に添った研修員が「ウ」側から推薦されてくるかどうかにかかっていると一言でも過言ではないと思われる。従って、大使館および現地JICA事務所との密なる連携と場合によっては事前の根回しが必要であるということが調査団と日本側の一致した意見である。

## 2 研修カリキュラム (案)

項目	研修内容	時間割 (日数)			実施地	研修実施機関
		講義	視察	討論		
1. 観光開発概論	(1) 日本の観光行政	0.5			東京	(財)国際観光開発研究センター
	(2) 観光開発概論	0.5			〃	〃
	(3) JNTO の海外旅行者誘致策	0.5			〃	〃
	(4) 外国政府観光局の日本での誘致活動	0.5			〃	〃
	(5) 日本旅行協会の役割	0.5			〃	〃
	(6) 日本のマーケットの特性	0.5			〃	〃
	(7) 地域開発における観光の効果	0.5			〃	〃
	(8) 地方の観光開発	0.5			〃	〃
	(9) 旅行会社から見たウズベキスタン	0.5			〃	〃
	(10) マーケティングの手法	0.5			〃	〃
	(11) ホテル経営と接遇	0.5			〃	〃
	(12) 観光における実務人材育成	0.5			〃	〃
	(13) 在京ウズベキスタン大使館表敬訪問	0.5			〃	〃
	小計	6.5				
2. 観光開発実地研修	(1) ウズベキスタン紹介公開セミナー	1.5			奈良	奈良県企画部
	(2) 奈良県の概要	1.0			〃	〃
	(3) 奈良県文化遺産視察	1.5			〃	〃
	(4) 日本人から見たウズベキスタン	0.5			大阪	国立民族学博物館
	(5) 日本におけるウズベキスタンの紹介		0.5		〃	〃
	(6) ヘリテージ・ツーリズム	1.0			〃	〃



	(7) ジョブ・レポート		1.5		奈良	奈良県企画部
	(8) 観光におけるボランティアの役割(観光案内所等含む)	0.5	0.5		〃	〃
	(9) 観光振興とインフラ(交通、案内板、トイレ等)	1.0			〃	〃
	(10) マーケティング各論(1) 旅行代理店の役割	1.0	1.0		大阪	(株)ジェイティービー
	(11) マーケティング各論(2) 観光プロモーションの手法・実例紹介	1.0			奈良	奈良県企画部
		0.5			〃	〃
	(13) 観光振興策実例紹介(NPOの役割含む)	1.0	2.0		大阪	歴史街道推進協議会
	(14) 空港サービス	0.5	0.5		〃	関西国際空港(株)
	(15) ウズベキスタン航空の活動	0.5	0.5		〃	ウズベキスタン航空
	(16) 土産物(企画・生産・販売)	1.0			奈良	奈良県企画部国際課
	(17) 食事(旅行者向けの企画)	1.0			〃	〃
	(18) 観光専門学校カリキュラム	0.5	0.5		〃	〃
	(19) トラベル・ヘルス	0.5			〃	国立公衆衛生院
	小計	14.5	7.0			
3. 実行計画案作成	(1) アクション・プラン作成			1.0	大阪	奈良県企画部国際課
	(2) アクション・プラン発表			0.5	〃	〃
	小計			1.5		
4. 研修旅行	(1) 一村一品運動		2.0		未定	奈良県企画部国際課
	(5) 食文化を通じた交流(うどん交流)		2.0		〃	〃
	小計		4.0			
	合計	21.0	11.0	1.5		

**総計 33.5日(休日を含め、約6週間)**

#### IV 参考資料

- (1) 1999年から2005年までのウズベキスタン観光業発展国家プログラム  
(1998年・ウズベクツーリズム)
  
- (2) 平成13年度 研修員募集要項 (G I = General Information)
  
- (3) 平成13年度 研修実施要領



1999 年から 2005 年までの  
ウズベキスタン観光業発展国家プログラム

タシケント 1998 年

# 目 次

- I はじめに
- II 計画の主な目的
- III 観光業のインフラ整備
  - 1.ウズベキスタンの歴史的・文化的資源の利用
  - 2.投資計画
  - 3.マーケティング
- IV 法的側面
- V 幹部養成
- VI 私営部門の支援および発展
- VII 表

## I はじめに

わが国の生活で起きている大きな政治面、社会・経済面の変革は、重要で将来性豊かな経済分野の一活動である観光業にも、直接影響を与えた。観光業は、現代の経済においてその発展に特別な役割を果たしており、対外世界にとって経済の「解放性」の向上を促進するものである。ウズベキスタンは CIS 諸国および世界の中で、この分野で比較的絶対的な優位性を持つ数少ない国の一つであり、非常に高い競争力と将来発展の大きな可能性を持っている

その根幹をなすのは、ユニークな自然条件、ムスリム・ルネッサンス期の数多くの歴史的建造物、古代中央アジアの諸民族が残した文化的・民族的遺産、近代的なリゾート地や保養所、国立公園や自然保護区である。しかしわが国の観光業界の近代的発展のレベルは、まだ持てる資源を最大限に利用できないでいる。先進国の多くでは、観光業が、産業発展や住民の生活水準向上の重要な「駆動ベルト」の一つとして選ばれている。

観光業は経済の特殊分野に属しており、わが国の多くの経済分野におけるサービス市場拡大や新たな雇用創出に役立つ新しい活動形態が最もダイナミックに形成されている。

一部の地方では観光業が支配的な産業となっていて、経済構造や生産力の発展に顕著な影響を与えている。国際的な経験が示すように、観光業は一定の条件さえ整えば、かなりの外貨収入を国にもたらすなど、短期間のうちに利益をもたらす経済分野になることができる。その前提となるのは、観光業発展の豊かな資源を持つ国において蓄積された生産能力、自然条件および文化的価値がある程度、国内および地方の市場の需要を上回り始め、さらに国際的な経済関係システムに積極的に組み込まれていることである。このため現条件において観光業は対外経済活動発展の主要な要素や刺激であり、国際貿易やサービス分野の発展に顕著な影響を与える輸出入関係の完璧な主体である。

世界観光機関（WTO）のデータによると、1998 年の国際旅行の規模は 1997 年に比べて 2.28%増加し、4437 億ドルだった。6 億 128 万人以上が旅行に行ったが、これは前年より 3%多かった。

ウズベキスタンは観光資源で中央アジアのトップの地位を占めている。国内の観光分野の経済指標の成長率は国際評価で年 15%だが、アジアの他の国と比べるとこの指標は 7%以下である。ウズベキスタンにおける観光業の可能性は、4000 以上もの建築物、記念碑、古代の遺跡の存在が示している。

文化・観光施設の以外にも、わが国は大きな余暇の資源を持っている。休息ゾーン、公園、保養施設、温泉などは、エコロジー・コースをつくる条件を与えており、外国人観光客の新たな流れを引き寄せる可能性がある。

観光業の国家モデル設立の条件をつくるにあたっての最初の、そして重要な段階となったのは、1992 年のウズベキスタン共和国大統領令「国営会社ウズベクトゥリズム設立について」である。その後、「大シルクロード復活へのウズベキスタン共和国の積極的参加および国内の国際旅行発展に関する措置」についての大統領令、および「ウズベキスタン共和国における国際旅行の最新インフラ設立に関する措置」「国内の旅行会社の改善」についての内

閣決定が出されたことで、観光業発展が活発化する一定の条件がつけられた。

## II 計画の主な目的

2005年までのウズベキスタン共和国観光業発展国家計画の主な目的は、次のとおり。

- 国際市場での競争力のある強固なわが国の観光産業の設立
- 豊かな文化的、歴史的遺産の利用
- 近代的な宿泊施設の新たな建設
- 私营部門の支援および発展
- 外資導入
- 観光資源の広告に対する積極策
- 新たな観光ルートの開発
- 新たな雇用の創出
- 国の地方の発展
- 直接もしくは間接的に観光業と関連する経済分野の発展：これによりあらゆる分野への外貨収入が増加し、経済発展のさらなる要因となる
- 観光業における法令文書の取りまとめ：これは観光産業の発展の否定的要因を排除する役割を果たす

## III 観光業のインフラ整備

### 1. ウズベキスタンの歴史的・文化的資源の利用

ウズベキスタン共和国には、自然環境条件、多様な動植物、世界的に有名なアビケンナ（イブン・シーナ）、ベルニ、ナヴォイ、アミール・テムール、ウルグベク、イマン・アリ・ブハラといった名前と結びついた古代文化の豊かな遺産がある。

ウズベキスタンには、外国人観光客の大きな関心を呼ぶ歴史、建築、考古学のユニークな遺跡がある。歴史的遺産の恒常的な修復や復活は国家予算によって行われており、最終的にわが国への観光客の大幅増の刺激となっている。ウズベキスタン領内には4000以上の建築遺跡があるが、現在観光対象として利用されているのはおよそ50%である。そして75%がタシケント、サマルカンド、ブハラ、ヒヴァにある。

発展が期待される観光ルートの一つは、シャフリサブズ市とフェルガナ渓谷である。「絹の世界」「偉大なる祖先の足取りを追って」「キャラバン・ツアー」「マルコポーロの旅」といった新たな観光ルートの取りまとめは、地方の観光資源を等しく利用することを可能にする。

## ウズベキスタンの観光業の現状

わが国の観光業は現在、社会経済進歩を早め、国際レベルおよび地方レベルの発展計画へ統合する重要な手段の一つとなっている。ウズベキスタンでは、経済改革や国家発展モデルの完成に本質的な影響を与える産業としての観光業形成の一定の条件がつけられた。ウズベキスタンにおける観光業発展の国家モデル形成の特徴は、全国家規模だけでなく地方規模の発展（特にかかなりの観光資源を持っているが十分な工業発展水準に至っていない地域）をも促進するものである。

国際レベルの観光業の発展問題を規定する主要文書に指摘されているように、観光業は多くの国の国民経済で重要な進歩の指標の一つであり、経済活動、国際取引、対外貿易の収支均等におけるその役割は観光業を世界経済の主要要素の一つにしている。世界観光機関（WTO）のデータによると、1997年の国際旅行の規模は1996年に比べて2.28%増加し、4437億ドルだった。6億1280万人以上が旅行に行ったが、これは前年より3.03%多かった。

ウズベキスタンは観光資源で中央アジアのトップの地位を占めている。国内の観光分野の経済指標の成長率は国際評価で年15%だが、アジアの他の国と比べるとこの指標は7%以下である。ウズベキスタンにおける観光業の可能性は、4000以上もの建築物、記念碑、古代の遺跡の存在が示している。文化・観光施設の以外にも、わが国は大きな余暇の資源を持っている。休息ゾーン、公園、保養施設、温泉などは、エコロジー・コースをつくる条件を与えており、外国人観光客の新たな流れを引き寄せる可能性がある。

独立ウズベキスタン共和国の生活で起きている大きな政治面、社会・経済面の変革は、観光分野にも作用した。

観光業の国家モデル設立の条件をつくるにあたっての最初の、そして重要な段階となったのは、1992年のウズベキスタン共和国大統領令「国営会社ウズベクトゥリズム設立について」である。その後、「大シルクロード復活へのウズベキスタン共和国の積極的参加および国内の国際旅行発展に関する措置」についての大統領令、および「ウズベキスタン共和国における国際旅行の最新インフラ設立に関する措置」「国内の旅行会社の改善」についての内閣決定が出されたことで、観光業発展が活発化する一定の条件がつけられた。観光業における肯定的な変革はWTOやユネスコの巨大国際プログラムへのウズベキスタンの積極的参加を促した。1994年に開催されたWTOの「シルクロードの旅」の会議およびこの古代の東西文化・交易の要所における観光業発展に関するサマルカンド宣言の採択後、ウズベキスタンでは1995年から毎年タシケント国際旅行見本市が開かれており、シルクロードに位置する諸国の観光産品を集結する重要な手段になっている。WTO、国連開発計画（UNDP）、国営会社「ウズベクトゥリズム」の専門家が参加して、ウズベキスタンにおける観光業の堅実発展の行動プランが取りまとめられ、その枠内でマーケティング調査が行われ、観光業および関連分野のインフラやこの分野の専門家の養成状態が調べられた。この最初の国際プロジェクトは、国内旅行産品の主要海外観光市場への紹介に重要な役割を果たした。

UNDPの専門家の評価では、2002年までにわが国には120万人以上の人々の訪問と10億ドル以上の観光収入が見込まれている。ウズベキスタンの専門家は、2005年までに観光客



は150万人まで増加し、観光に直接間接に関連する産業の収入はおよそ13億ドルになると予測している。

1998年8月現在、国営会社「ウズベクツーリズム」には96の企業と団体（ホテル、宿泊施設、キャンピング場、モーテル、バス・タクシー会社など）が加盟している。これら企業の大部分は、様々な財産や経営形態を持っている。このほかにわが国では、300以上の団体が観光業での企業活動の許可証を受けて活動していた。

国の専門家の計算では、2005年までに国営会社「ウズベクツーリズム」の企業グループのみがサービスを提供する観光客の数は、1998年比で164.2%に増え、そのうち外国人は2.59倍になる。観光客の増加に伴い、観光客へのサービスによる収入は6.23倍に増え、そのうち外国人からの収入は3.3倍になる。純益は2005年までに3.1倍に増加するみとおしである。

サービス輸出に占める観光業の割合は1997年には4.85%、GDPに占める割合は0.4%だった。専門家によると、観光業発展の国家モデルは経済に占める旅行関連分野の割合を、世界の指標に近い、サービス輸出全体の25%弱、GDPの10%にまで増加すると見込んでいる。

上記のことや国民経済発展の新たな段階にわが国が到達したことを考えると、観光業や、特に国営企業にとって、ウズベキスタンにおける観光産業の国家モデルのさらなる発展や向上および国際観光市場へのウズベキスタンの統合が主要課題として立ちはだかつており、「2005年までのウズベキスタンにおける観光業の堅実発展の国家プログラム」の取りまとめが必要となっている。

## 1.観光業の法的基盤

### 1.1.法的基盤の改善

国営会社「ウズベクツーリズム」およびウズベキスタンの旅行会社の活動の法的基盤は、承認・発効したウズベキスタン共和国法、大統領令、政府決定・政令、ウズベキスタン共和国が外国や国際（地方）機関と調印した国際・国家間・省庁間の合意であり、これらは国内外観光の発展および観光インフラへの外国投資や国内資本の導入に国家保証を与えるものである。

このプログラムは、観光分野における単一の法令セットの今後の編成に不可欠な条件をつくることを想定している。

主な課題は、観光業の国家モデルの発展および競争力あるウズベクのツアー商品の世界・地方市場への紹介の法的基盤の強化である。

この目的のために、多くの部門から成り立つ観光業の性格を考慮して、国営会社「ウズベクツーリズム」は、この分野における国家戦略を実現する機関として、観光業に直接的間接的に関連する問題を調整する確固たる法的基盤の上に立脚しなければならない。これは観光ビジネスの特性を多くの点で考慮させ、しばしば私営の観光会社や国営会社「ウズベクツーリズム」の関連会社がおかす法の誤解や世界レベルでの否定的影響（係争、訴訟）を回避す

るようにさせる。

外国へ行こうと決めた観光客にとって一番の問題は、ビザである。ビザ問題は世界中で様々な対応がある。

ウズベキスタンでは今現在、外国人へのビザ発給問題ではかなりの簡素化が行われた。

- ビザは在外ウズベキスタン共和国領事部門によって発行されるが、これがない場合、外務省がビザ発給権限の委任合意を結んでいる他国の領事部門が代行する。
- タシケント空港およびそのほか外国便のある空港では、ウズベキスタン共和国外務省領事部事務局がビザを発行する。
- 出入国ビザは、国内全域で有効。
- ビザ発給のためには、観光客は領事部に出向き、用紙2部に記入し、ウズベクツーリズムもしくは別の旅行会社のバウチャーおよびパスポートを添えて提出しなければならない。ビザは3日間（休日を除く）で、通過ビザも同期日で発行される。
- しかし現在、ビザ受取り手数料の納入問題が持ち上がっている（特に滞在が15日以上の個人・団体観光客）。
- タシケントおよびその他の空港での税関・入国審査が少なからぬ問題としてある。外国人観光客はウズベキスタンに到着した最初から、否定的な影響を受けている。

## 2. インフラと投資プログラム

### 2.1. ホテル産業

現在、国営会社「ウズベクツーリズム」の傘下には、様々な資本形態（株式会社、合弁会社、国営企業）の25のホテル会社が加盟している。最も大規模で、国際レベルにふさわしいホテルは、「ホテル・ウズベキスタン」「ショドリク・パラス」「ホテウ・アフロシアブ」「ホテル・ブハラ」（新館）であり、これらは宿泊、食事、観光手配サービス以外にも観光客の送迎も行っている。

ホテル産業の発展を分析すると、外国の投資なしでこの部門を発展させることはかなり難しい。例えば、1997年秋に改修工事が終わり営業を再開したホテル「ショドリク・パラス」（客室数107）は、1500万マルクかかった。ウズベキスタンとマレーシアとの合弁会社「ホテル・ウズベキスタン」（タシケント市）の改修には3150万ドルを予定していたが、現時点ではその3分の2しか投資が得られていない。またホテル「ヒヴァ」（客室数60）は、2000万スムの改修費用がかかった。1997年にはインド政府から250万ドルの投資があり、ホテル「ブハラ」の新館の内装に当てられた。

国営会社「ウズベクツーリズム」は現在、ホテル産業の投資プログラムを取りまとめた。内容は次のとおり。

- 「プレジデント・ホテル」（サマルカンド市：客室数150、ベット数260）の建設。建設開始1999年、完成2000年。概算費用1900万ドル。予定では1999年に1200万ドル（13

億 2000 万スム) を消化。施工主は、トルコの建設会社「Okan Holding」。資金は、ウズベキスタン共和国国立対外経済関係銀行とエクシム・バンクによる。

現時点でウズベキスタン共和国政府決定草案が準備中なのは、以下のとおり。

- ヒヴァ市のホテル新設（客室数 120、ベット数 200）。期間は 1999 年から 2000 年。概算費用は 1900 万ドル。1999 年に 900 万ドル（9 億 9900 スム）を消化。施工主は、フランスの「ブイグ」社。資金は外国の銀行による。
- ホテル「ホラズム」（客室数 80、ベッド数 150）の改修工事。概算費用は 750 万ドル。1999 年に 300 万ドル（3 億 3000 万スム）を消化。施工主は、インドの「TATA」社。改修工事は、国際協定によりインドの融資によって行われる。
- 2001 年までのホテル「オルティン・ヴォジー」（アンジジャン市）の改修工事および客室 130 の三つ星ホテル・レベルへの引き上げ。
- ホテル「ウズベキスタン」（ジザク市）の改修工事。
- 2005 年までにテルメズ市へ三つ星ホテルを建設。

このほか国内投資、特に来賓宿泊所、隊商宿泊所、小規模ホテル（10 から 20 人）の建設への人的資源の導入を積極的に行う必要がある。また効率性を挙げるために、外国人マネージャーにホテルを任せることも妥当である。

ウズベキスタンにおける観光業の堅実発展の国家プログラムによると、ホテル建設の需要は 2005 年までに 45 のホテル、総ベット数 9130 以上になる。

現時点でわが国には、稼働率 60% で外国人 53 万 3600 人を受け入れるだけの客室数、もしくは国際水準に見合うベット数 7310 がある。

2005 年までに外国人観光客の数は 120 万人になると予測され、このためには国際水準に見合うベット数 1 万 6440 の客室を持つ必要がある。

## 2.2. 交通・道路

旅行分野の資源開発は、交通面のインフラ整備なしには不可能である。この方面では、次の施策を実施することになっている。

- 中央アジアの条件に見合った最新式観光バスへの更新。この問題について、イタリアの「イヴェコ」社、ハンガリーの「イカルス」社、スウェーデンの SAAV 社、トルコの会社と交渉が行われている。保有バス全車の更新は 3 年間で行う計画である。このほか 1999 年から 2000 年にリース契約（15% の支払い）でバス 50 台を購入し、残額の償却は契約にしたがって 8 年から 10 年の期間で行う。更新が必要なバスは 200 台あり、このうち 110 台が耐用年限を 10 年以上すぎている。
- 運転手や観光客の休憩、車体の修理や燃料補給ができる施設の新設。
- タクシーサービスをする個人や会社の導入、私営交通局の予約。

この方面では検討作業が行われている。例えば、ウズベキスタンでの自動車観光の基地をつくるため、1997 年に給油スタンド建設費として 1 億 1730 万スムの融資がなされた。この

ほか「ウズツルストロイ」は、国営会社「ウズベクツーリズム」の資金で以下の施設建設を行った。

- サマルカンド市の総合自動車サービス施設（ベット数 40 のホテル、定員 20 名のカフェ、給油スタンド）。1999 年には 5733 万 4000 スム（契約金額）を消化する予定。
- ブハラ市の総合自動車サービス施設。1999 年には 9351 万 4100 スム（契約金額）を消化する予定。

### 2.3. 食事と余暇の提供

観光業の国家モデルには、国際水準にみあった食事施設の発展も含まれている。これに関連して、ウズベク料理やアジア風料理、さらにヨーロッパ料理を組み合わせたレストランやカフェのネットワーク設立も有望だと思われる。この際、サービスと料理の質は、ウズベキスタンにやってくる観光客の出身国での水準にふさわしいものにしなければならない。

新たな外貨収入源になるとみられるのは、自然公園、ナイト・カジノやバー、ゴルフ場、ディスコといった外国人向けの新しい余暇・サービス形態である。外国人観光客へのサービス向上を図るため、チャルヴァク貯水池にアメリカの「アーバン・デザイン」社と共同で国際レベルのゴルフクラブを建設する予定である。特筆すべきは、世界的に見ると、サービス、商業、余暇といった分野からの外貨収入が総収入の 45～50% を占めていることである。

このほか国の観光業の発展および観光サービスの輸出拡大のため、国営会社「ウズベクツーリズム」の関連企業は、外国人観光客が環境面や学術面で興味を抱くウズベキスタンの他地域を引き入れる予定である。アラル海地区、フェルガナ渓谷、スルハンダリヤ州、アンジジャン州における新たな観光ルートを 2005 年までに作成し、導入する計画である。観光客には、「ラクダに乗って」「クズィルクムの遊牧生活」「アミール・テムールの歴史的遺産」「山岳観光『大チムガン』」「古代テルメズ」といったエキゾチックな余暇が提供される予定である。国営会社「ウズベクツーリズム」の専門家によると、これは外貨収入を増加させ、観光資源を強化するはずである。

### 2.4. 通信（電話、グローバルライン、インターネット）

ウズベキスタンの観光分野の発展のためには、科学技術発展の成果や先端技術の利用にも目を向けられなければならない。情報化と生産のコンピューター化、最新の通信機器の利用は、国の観光業の効率性を手助けするだろう。

この面で、国営会社「ウズベクツーリズム」の全関連企業のインターネット接続およびペンティアム世代の高性能コンピューターの配備は、検討の必要性がある（予約、部屋割りに関する単一のデータベース、計算、統計、外貨・財務管理などの作業を LAN で行う）。このほか観光ルートの状況を把握するため、観光客の移動に使う自動車を無線・携帯電話で確保することも必要である。

ウズベキスタンのツアー商品の対外市場への強化・進出のために、国営会社「ウズベクツーリズム」は、ツアー商品の広告、ウズベキスタンの自然観光ゾーンの宣伝、世界・ヨーロ

ツパの水準による価格地位決定のために、2000年までにTUI（国際観光団体）に加盟する必要がある。この団体は、多機能構造（ホテル予約、バウチャー発行、飛行機・鉄道の切符確保、国際水準の活動）である統一コンピューター網TUIへの国営会社「ウズベクツーリズム」のアクセスを保証する。

### 3.マーケティング・プログラム

#### 3.1.国のツアー商品の確立

現在、国営会社「ウズベクツーリズム」には20以上の主要観光ルートがあり、外国人観光客から人気を博している。このルートを作成する際、専門家はウズベキスタンが中央アジア地域のコーディネータとなっている「大シルクロード」プログラムを基礎とした。

また様々なツアーが発展している。

- ウズベキスタン古都の歴史観光（タシケント、ブハラ、サマルカンド、ヒヴァなど）：建築遺跡や歴史遺産に触れる。
- 考古学ツアー（テルメズ、クヴァ、ホレズムなど）：観光客が発掘や修復作業へ積極的に参加する。
- 冒険ツアー：砂漠、ステップ、チムガン山脈の旅。移動住居の生活。
- 環境ツアー：ウズベキスタンの風光明媚な場所や自然公園を訪問（フェルガナ溪谷、チャルヴァク貯水池、アラル海、ザアミンなど）。
- エキゾチック・ツアー：馬・ラクダの旅、狩り、釣り、お祭り参加など。
- 学会ツアー：学会やシンポジウムに参加して、ウズベキスタンの文化・歴史センターを訪問する。
- ブハラの山々、サマルカンド、その他聖地を訪ねる宗教ツアー。

外国人観光客の増加および世界的な観光名所としての肯定的なイメージの定着は、観光客がウズベキスタン入国時に直面する入国、税関、ビザなど諸手続きの簡素化問題、および滞在中の安全確保問題の解決と結びついている。これに関連して、国営会社「ウズベクツーリズム」は関連官庁と共同で、こうした問題の検討をする必要がある。

ツアー商品は、提供されるサービスの質にも左右される。旅行会社（レストランのサービス、食事、ホテルの客室、電話）だけでなく民間産業（交通、一般の外出や商売、街路の清掃、社会秩序、娯楽・教養施設、英語の案内板）もサービスの質向上に努めなければならない。

#### 3.2.価格設定

ウズベキスタンのツアー商品をつくるにあたって、価格設定や競争力ある「バック旅行」（宿泊、食事、観光などの総合サービスを含む）の確立といった問題に重点をあてる必要がある。この際必要なのは、わが国の「バック」を「大シルクロード」旅行を提供する他国のツアー商品と価格面で一致させることである。

外国人観光客の平均滞在日数は、オーストリアが11.2日、イギリスが9.8日、スペインが12日である。外国人観光客の標準的なウズベキスタン滞在期間は7日（平均して±2、3日の範囲内）とみられる。これは時間に制約されている（休暇日数：外国は2週間未満、タシケントまでの飛行機往復：2、3日、最適な観光日数：7日未満）。またウズベキスタンの気候条件も、観光客の滞在日数を修正させている。このため旅行団体へのサービスプログラム（例えば自動車での移動、ホテル）は、この期間を考慮しなければならない。

ウズベキスタンは国際市場において、古代にウズベキスタンの諸都市を通っていた「大シルクロード」の広告を通じて観光ツアーを売り出している。分析によると、現在もっとも人気のある観光ルートは、次のものである。

- タシケント～サマルカンド～ブハラ～ウルゲンチ～タシケント：料金は676ドルから
- タシケント～サマルカンド～シャフリシャブズ～ブハラ～ウルゲンチ～タシケント：料金は845ドルから（20名の団体向け）

ツアーを「大シルクロード」の他国（中国、イラン、アラブ首長国連邦）へ販売している旅行代理店の調査によると、価格はウズベキスタンより多少安い。なお、これら諸国は広告に多くの資金を費やしている。表4に、これら諸国のツアー料金の比較データを掲げた。

この面でウズベキスタンは、ホテル、食事、交通のコストダウンによって、ツアー商品の値段を下げるよう努力しなければならない。

### 3.3. 広告・情報活動

ウズベキスタンの観光業の地方・世界市場への進出は、国のツアー商品の積極的（しかし攻撃的ではない）広告なしには不可能である。この面で、国営会社「ウズベクツーリズム」や私営旅行会社は、ウズベキスタンの観光名所に関する小冊子、パンフレット、ポスター、地元や外国の新聞での紹介やルポ、ビデオや映画の制作といった活動を続ける必要がある。例えば、アラブ東方世界は世界の名作映画のおかげで有名になり、潜在的観光客がこれら諸国への旅行に非常に関心を増した。ウズベキスタンは良質のビデオや映画（劇場映画、ドキュメンタリー、テレビ番組など）で自己アピールする必要がある。

ウズベキスタンは、「シルクロードの十字路」としての積極的な地位をアピールする必要がある。この面では、観光分野のあらゆる側面で使用できるロゴをつくる必要がある。アイランドは「緑の島」、中国は「黄色い龍」、中東は「商業キャラバン」、スペインは「太陽のロゴ、ミロ」、インドは「象と塔」、タイは「釈迦の黄金の目」だが、ウズベキスタンのロゴは、ウズベク民族の本質、日常、伝統、文化を反映した国家の象徴に相応しいものでなければならない（例えば、鳥セムルグ、青い円屋根の国、東方の門など）。

広告活動は、国際観光見本市（ロンドンのWTM、ベルリン、ミラノ、モスクワ、タシケントなどでのITB）に出席した時に、積極的にしなければならない。

### 3.4. マーケティングリサーチの発展

観光業の近代化には、積極的なマーケティングリサーチが必要である。このために国営会

社「ウズベクツーリズム」はアンケート用紙の作成・導入、および観光客の予約・宿泊リストの作成に着手した。これによって現状を管理し、国内外の観光客の要求や問題を知ることができる。一方、現在の観光客出入国統計制度の改善、潜在的な内外市場、サービスの質、その国際水準への対応の調査などが必要である。

### 3.5. 外国の会社との共同活動

国のツアー商品の対外市場進出という目的を達成するために、ウズベキスタンは世界的傾向や市場予測に関する信頼できる情報にアクセスする必要がある。外国の専門家によると、国が独自に取り組んだ場合、こうした情報の入手は非常に高くつく。世界観光機関（WTO）は、ごく限定的な情報を提供しているにすぎない。このためウズベキスタンは他の国連機関、ユネスコ、国連工業開発機関（UNIDO）、世界保健機関（WHO）、国連食糧農業機関（FAO）、インターポール、さらにはアメリカの ASTA や日本観光業協会（JATA）といった各地の国際組織との関係を積極化する必要がある。このほか、アジア太平洋観光協会（PATA）やヨーロッパ観光委員会（ETC）といった様々な組織にウズベキスタンは参加すれば、特殊な市場情報をより多く入手することができるだろう。

## 4. 私営部門の発展および企業活動の支援

### 4.1. 私営旅行会社協会

1998年8月8日付ウズベキスタン共和国閣僚決定第346号により、私営旅行会社協会が設立された。その主な活動方針は、次のとおり：大シルクロードの復活と国内の近代的旅行インフラの発展への積極的参加、私営旅行会社の活動の協力と調整、外国投資と法人・私人資金の私営旅行会社発展への誘致。

観光業務の許可証を持つ400以上の会社のうち、現在活動しているのはおよそ3分の2である。しかも観光客の送迎を積極的に行っているのは60%以下である。その理由は、価格決定、ルート設定、宿泊、食事、交通機関の手配、専門的な習熟、技術、機材の不足、パートナー探しの難しさなどといった、ツアー商品の考案・販売に伴う困難さである。

### 4.2. 観光業界労働者協会

観光業界では専門家の同業組合、特に通訳者協会、飲食店労働者協会、ホテル協会、民芸品生産者協会なども必要である。社会組織の権利において、こうした協会は専門労働者の権利を保護し、あらゆる支援を与え、融資や銀行貸付の供与、また場所の賃貸などで労働・生産団体を支援するだろう。

## 5. 専門教育プログラム

## 5.1. 教育施設の設立

観光業の発展は、関連する専門家の養成問題と直接関連する。現在、国際旅行の専門家の養成はタシケント国立経済大学とタシケント中等学校(リツェイ)で行っているだけである。UMEDの観光学部閉鎖によって、観光業界で活躍できる高い技能を持った専門家の数が減少した。このため幹部養成を、国営会社「ウズベクツーリズム」付属の高等商業観光学校、ホテル、食事、輸送関係の専門家を養成するカレッジなどといった自前の教育施設で行うことが適切である。

このほか、中央アジア地域の幹部養成のための独立採算制で資金自己調達でWTO研究所を2005年までにサマルカンドに設置する必要がある。教育は有料で、期間は2年と4年。研究所の教授・教育スタッフは、WTOから派遣してもらう可能性がある。

教育は、商業ベースでの国家保証と、国際協定(同等主義:例えばウズベキスタンの学生1人をアメリカで、アメリカの学生1人をウズベキスタンで学ばせる)とで行われる可能性がある。

こうした教育施設では、専門教育を受けていない国営会社「ウズベクツーリズム」関連企業、私営旅行会社協会、私営旅行会社の多くの職員たちが、再教育や技能向上を受ける。

研究所では、観光業発展の学術プログラムと旅行活動調査のメソッドを取りまとめる。

## 5.2. 国際観光センターへの留学

外国の先進的経験の習得は、わが国の観光発展の重要な部分である。国営会社「ウズベクツーリズム」関連企業の職員を観光業界の専門家を養成する先進的なセンター(特にエジプト、イスラエル、ギリシャ、ドイツなど)へ留学させる必要がある。

## 6. 1998年から2005年までのウズベキスタン共和国観光業発展の主要方針

ウズベキスタンは、観光業発展の大きな可能性を持つ国である。

国際的な経験が示すように、観光は経済の特殊分野としてさしたる費用をかけることなく、そして短期間のうちに国の外貨収入項目の一つになることができる。

政治的、地理的観点からみて、ウズベキスタンは歴史上の通商路の十字路に位置する。この地方では、あらゆる方面で幅広い国際関係がつけられて発展し、様々な文化の混合が起きた。これは、中央アジアのいくつかの大国の発展を促した。わが国の自然条件も良好であり、いつの時代も観光客を受け入れる可能性を与えてくれた。ウズベキスタン共和国には、文化的、歴史的な遺跡が豊富である。こうしたことを考慮し、観光業発展の根本的变化を目的として、「2005年までのウズベキスタンにおける観光業の堅実発展の国家プログラム」の草案が取りまとめられた。起草された観光業発展国家プログラムは、観光業の目的と課題、およびその実現のための基本原則とメカニズムを明らかにしている。

1. 観光業を通じて、わが国の文化遺産を知ってもらう。



2. 観光を通じて国民に民族文化遺産を紹介し、祖国愛を育む。
3. 歴史・文化遺産の修復・保全、ならびに観光業の重要産業分野への転換に物質的援助を行う。
4. 社会変革における家族の役割と参加のさらなる向上、家族の法的、社会的、経済的、精神的関心の終始一貫した保証のために、家族旅行を発展させる。
5. 国内観光を通じた、自分の地方や国、ならびに他の国々に関する住民の知識向上。

ウズベキスタン共和国における旅行の戦略的課題は、次のとおり。

- 国際社会におけるわが国の権威高揚、および国際観光市場へのわが国の統合。
- ウズベキスタンの全民族の歴史・文化遺産を幅広く知らせる。
- わが国での民族間関係の拡大と深化、国外での平和と相互理解の確保。
- 観光業を、外国人観光客からの国内通貨・外貨の収入源へ転化し、わが国の財務収支に影響を与える国家収入確立にまでその意義を高める。

こうした戦略課題の実現は、独立採算制で資金を自己調達でき、さらに国に外貨収入を保証する観光産業の設立なしには、不可能である。

## 7.ウズベキスタンにおける観光業発展の優先方針

国際的な経験が示すように、観光業は経済の特殊分野として、国の外貨収入項目の一つになることができる。

- ウズベキスタンを訪れる外国人観光客の増加
- 観光客の滞在期間の増加
- 外国人観光客の入国と国内観光客の出国との関係の適正化
- 国営会社「ウズベクトゥリズム」の関連会社や、他の国々、機関、コンツェルン、組織の会社が観光客に提供する、追加的サービス分野の拡大
- 観光業のインフラ発展に向けられる外国投資
- 新たな観光基盤の修復、改修、設立に必要な機材、家具、設備の輸入削減
- 国際市場での観光会社の対外経済活動

WTO の専門家がウズベキスタン共和国の観光資源と経済状態を研究した結果、2005 年までに観光客の数は 1998 年比で 164.2% 増、うち外国人観光客は 2.59 倍と見込んでいる。

観光客総数の増加によって純益は 6.23 倍に、うち外国人観光客からはのものは 3.3 倍に増加する。

表1：国内観光客発展の予測

No	指標名	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
1	観光客数(1000人)	700	750	800	850	930	1000	1100	1150
	うち外国人	270	300	350	400	480	550	650	700
2	旅行サービスの収入(100万スム)	3000	4146.6	5700	6900	9400	13000	15600	18700
	うち外国人から(100万ドル)	20	25	30	34	40.8	49.5	59	66
3	観光客1人あたりの収入(ドル)	74	83	85	85	85	90	91	94

表2：観光の法令

No	法律名	制定準備に責任をもつ機関	作成に関与した機関	時期
1	観光法	国営会社「ウズベクツーリズム」	法務省	1998～1999
2	観光サービスの基準・許可に関する規定	国営会社「ウズベクツーリズム」、ウズベキスタン国家規格局	科学研究所、保健省、国家建設局	1999～2000
3	観光分野の協力に関する政府間協定	国営会社「ウズベクツーリズム」、外務省	法務省	1998～2005
4	観光分野の協力に関する省庁間協定	国営会社「ウズベクツーリズム」、外国の観光局		1998～2000
5	観光分野の企業・労働者の資格審査および認可に関する規定	省庁間評議会、国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	文化省、教育省	1999～2005
6	ウズベキスタン共和国出入国規定	省庁間評議会、国営会社「ウズベクツーリズム」	内務省、安全保障会議、関税国家委員会、税務国家委員会、外務省、保健省、ホミキヤト	1999～2005

表3：国営会社「ウズベクツーリズム」の投資プログラム（1999年から2005年）

No	件名	必要投資額 (100万ドル)	財源	時期
1	「プレジデント・ホテル」(サマルカンド市)の建設	19	ウズベキスタン共和国の国立銀行	1999～2000
2	ヒヴァ市のホテル新設	19	外国投資	1999～2001
3	ホテル「ホラズム」(ウルゲンチ市)の改修	7.5	インドの融資	1999～2001
4	ホテル「オルティン・ヴォジー」(アンジジャン市)の改修	8	外国投資と地元投資	2001～2002
5	ホテル「ウズベキスタン」(ジザク市)の改修	10	外国投資と地元投資	2001～2002
6	テルメス市のホテル改修	6	外国投資と地元投資	2003～2005
7	ホテル「サマルカンド」(サマルカンド市)の改修	8	外国投資と地元投資	1999～2001
8	自動車・バスの更新	12	外国投資と地元投資	1999～2005
9	ホテル「ブホロ」(ブハラ市)の改修	8	外国投資	2000～2001
10	休息所とゴルフ場の建設(タシケント州、チャルヴァク貯水池)	100	外国投資	2000～2003
11	専門家の海外研修および技能向上	—	外国投資、国内資金	1998～2005
12	観光分野での合併企業設立	—	外国投資、国内資金	1998～2005
13	外国での取引の組織	—	外国投資、国内資金	1998～2005

表4：「大シルクロード」に加盟している諸国のツアー商品料金の比較

中 国	アラブ首長国連邦	イラン
598.5ドル(ビザ25ドル、三つ星ホテル「リタニ」170ドル食事なし、ホテル「シャニ・レアニ」150ドル80人で食事なし)	527ドル(ビザ51ドル、「グラント・ホテル」;7日間200ドル、5日間160ドル、3日間160ドル、食事付き)	ビザ60ドル、メシヘドの三つ星ホテル「サディル」70ドル、テヘランの三つ星ホテル「アルマン」140ドル
ウズベキスタンの70.9%	ウズベキスタンの62.5%	

表5：国内旅行の組織・マーケティングに関する措置

No	措 置	機 関	時期
1	税関手続きの簡素化 ・空港、鉄道駅での外国人観光客用「グリーンライン」の設置 ・新様式の税関申告書の導入 ・飛行中（飛行機の機内）もしくは移動中（バス、鉄道）の税関申告書の記入	国営会社「ウズベクツーリズム」、税関国家委員会、「ウズベキストン・ハヴォ・イウラリ」、「ウズベキストン・テミル・イウラリ」、ウズベキスタン・バス協会	1999 ～ 2000
2	ビザ、入国書類の簡素化 ・旅行ビザの空港での取得（二国間協定のある国の団体向け） ・パスポート・コントロールへの「グリーンライン」利用	国営会社「ウズベクツーリズム」、外務省、安全保障会議	2002 ～ 2005
3	疫病管理の簡素化 ・飛行中の紹介パンフレット配布（機内、電車内） ・観光客の予防接種報告書の配布（機内、電車内）	国営会社「ウズベクツーリズム」、保健省、「ウズベキストン・ハヴォ・イウラリ」、「ウズベキストン・テミル・イウラリ」、ウズベキスタン・バス協会	1999
4	ウズベキスタンの新たな観光ルートの作成 特殊な観光プランの作成 観光ツアー／環境ツアー／エキゾチック・ツアー／スポーツ・ツアー／冒険ツアー／健康ツアー	国営会社「ウズベクツーリズム」、ホミキヤト、文化省、科学アカデミー、保健省	1999 ～ 2005
5	インターネット、E-mailを利用した電子広告。潜在的観光客へのウズベキスタンの観光名所やツアー商品の紹介	国営会社「ウズベクツーリズム」	1999 ～ 2005
6	テレビ番組「ツーリズム・レビュー」の復活、ウズベキスタンの旅行、歴史、文化に関する大作の出版、週間情報広告紙「大シルクロード」の発行、ラジオでの旅行問題の放送	国営会社「ウズベクツーリズム」、国家ラジオ委員会、文化省、科学アカデミー、教育省	1999 ～ 2005
7	最も観光客が多い国への代表部開設	国営会社「ウズベクツーリズム」	2000 ～ 2005
8	ウズベキスタンの観光ロゴの作成・導入	国営会社「ウズベクツーリズム」	1999 ～ 2000
9	対外市場で競争力のある単一ウズベク・ツアーパックの販売	国営会社「ウズベクツーリズム」	1999 ～ 2000
10	ウズベキスタンや、その歴史、伝統、文化を直接、間接的に宣伝する映画の製作	国営テレビ、映画スタジオ「ウズベクフィルム」、私営ビデオスタジオ	1999 ～ 2005
11	情報の交換・入手のための国際組織（世界観光機構、ユネスコ、国連工業開発機関、国連開発計画）との積極的な活動	国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	1999 ～ 2005
12	地域の観光団体への加盟（アジア太平洋観光協会、ヨーロッパ観光委員会）	国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	1999 ～ 2005

表6：私営部門の発展および企業活動支援に関する措置

No	措 置	管 轄	時期
1	観光業の専門労働者団体設立：・通訳者協会、飲食店労働者協会、民芸品生産者協会	国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	1999 ～ 2005
2	私営部門への融資、場所の賃貸、従業員教育への援助	国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	1999 ～ 2005
3	パートナー探し、観光市場のマーケティングへの援助	国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	1999 ～ 2005
4	私営会社職員の教育・専門性向上への援助	国営会社「ウズベクツーリズム」、私営旅行会社協会	1999 ～ 2005

表7：幹部養成に関する措置

No	措 置	管 轄	時期	財 源
1	専門の学士・修士を養成する観光研究所、および研究所付属の専門技能向上センターの設置	国営会社「ウズベクツーリズム」、高等教育省、世界観光機関、TASIS、私営旅行会社協会	2000 ～ 2002	ウズベクツーリズムの自主財源、国家保証、商業契約、世界観光機関の資金、TASISの融資
2	ホテル、食事、輸送関係の専門家を養成する国営会社「ウズベクツーリズム」付属観光カレッジの設立	国営会社「ウズベクツーリズム」、教育省、私営旅行会社協会	2000 ～ 2001	ウズベクツーリズム、教育省の資金、国家保証
3	国営会社「ウズベクツーリズム」職員の国際観光センターへの留学（エジプト、ギリシャ、トルコ、アメリカ、オランダ、ドイツなど）	国営会社「ウズベクツーリズム」、高等教育省	1998 ～ 2005	受入側の資金
4	中央アジアの幹部を養成する世界観光機関研究所の設置（学士、修士）	国営会社「ウズベクツーリズム」、世界観光機関、高等教育省	2000 ～ 2005	国際融資、保証、商業契約

## Latest Statistics on Tourism in Uzbekistan

"Uzbektourizm" system data as for 2000.

1	Data name	Quantity	
1	Enterprises in tourism system	unit	400
2	Hotels in "Uzbektourizm" National Company system	unit	21
3	Total capacity of hotels	beds	6008
		rooms	3326
4	Buses	unit	217
5	Restaurants	unit	25
6	Seats	seat	5729

Service volume on tourism system for 1995-2000

(mln.sum)

Activity	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Tourist service volume						
Private hotels, motels, kempings	294,9	545,1	1141,3	1638,0	1706,2	2111,7
rented spaces	37,8	71,1	109,4	133,8	159,9	580,1
on transport route	157,5	325,1	359,6	626,1	810,2	705,9
excursion	11,9	19,5	57,2	97,5	81,5	194,7
Transport service	80,0	138,0	183,3	183,6	214,4	275,2
Public catering service	91,5	246,5	388,5	656,6	660,2	887,2
Other income, commercial activity	137,5	430,7	1417,8	1364,0	1672,3	2127,6
Total:	811,1	1776,0	3657,1	4699,6	5304,7	6882,4

Service volume on tourism system for 1995-2000

(thousand people)

Activity	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Tourist service						
Private hotels, motels, kempings	288,2	290,1	373,3	380,5	405,6	400,0
rented spaces	17,6	74,3	110,8	107,5	144,2	150,1
railway route	4,9	2,2	1,6	1,1	4,0	2,5
bus route	96,3	139,6	142,6	148,4	119,6	154,5
air route	14,5	76,7	77,3	83,9	68,8	50,8
other routes	36,9	6,7	24,8	12,1	9,6	12,2
Total:	458,4	589,6	730,4	733,5	751,8	770,1

**Regular airflights timetable**

<b>Destination</b>	<b>Company</b>	<b>Times a week</b>
Tashkent - Paris	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	2 times a week
Tashkent - Athens	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	2 times a week
Tashkent - Bahrain	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	1 time a week
Tashkent - Bangkok	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	4 times a week
Tashkent - Dhaka	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	1 time a week
Tashkent - Dehli	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	6 times a week
Tashkent - Jeddah	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	2 times a week
Tashkent - Karachi	Pakistan Air	1 time a week
Tashkent - Kuala Lumpur	Pakistan Air	2 times a week
Tashkent - London	Pakistan Air	6 times a week
Tashkent - New York	Pakistan Air	3 times a week
Tashkent - Osaka	Pakistan Air	1 time a week
Tashkent - Beijing	Pakistan Air	2 times a week
Tashkent - Seoul	Pakistan Air	2 times a week
Tashkent - Seoul	Asiana	1 time a week
Tashkent - Istambul	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	2 times a week
Tashkent - Istambul	Turkish Airlines	3 times a week
Tashkent - Teheran	Ariana	1 time a week
Tashkent - Tel Aviv	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	3 times a week
Tashkent - Frankfurt	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	3 times a week
Tashkent - Frankfurt	Lufhanza	3 times a week
Tashkent - Sharjah	NAC "Uzbekistan Havo Yullari"	2 times a week

**Regular bus route timetable**

<b>Destination</b>	<b>Company</b>	<b>Times a week</b>
Tashkent - Samarkand	Uzintour	5 times a week
Tashkent - Samarkand	JV "Uzbekistan Hotel"	1 times a week
Tashkent - Samarkand	"SharkIntour"	2 times a week
Tashkent - Samarkand	"Asiaintourbusiness"	2 times a week
Tashkent - Bukhara	Uzintour	5 times a week
Tashkent - Bukhara	JV "Uzbekistan Hotel"	1 times a week
Tashkent - Bukhara	"SharkIntour"	2 times a week
Tashkent - Bukhara	"Asiaintourbusiness"	2 times a week
Tashkent - Urgench - Khiva	Uzintour	5 times a week
Tashkent - Urgench - Khiva	JV "Uzbekistan Hotel"	1 times a week
Tashkent - Urgench - Khiva	"SharkIntour"	2 times a week
Tashkent - Urgench - Khiva	"Asiaintourbusiness"	2 times a week

平成13年度（第1回）

国別特設：ウズベキスタン地域観光振興コース  
実 施 要 領

平成13年12月

国 際 協 力 事 業 団

大 阪 国 際 セ ン タ ー



## 目 次

1. コー ス 名 な ど.....	1
2. コー スの目的・背景.....	1
3. 到 達 目 標.....	1
4. 研修方法・研修項目.....	2
5. 研修員参加資格要件.....	3
6. 研 修 実 施 体 制.....	4
7. 宿 舎.....	6
8. 研修付帯プログラム.....	6
9. 研 修 の 評 価.....	7
10. 修 了 証 書.....	7
11. 研 修 員 の 待 遇.....	8
付表 1) 研修日程.....	9
2) 研修員による研修評価表.....	10

## 1. コース名など

### (1) コース名

和 文 : ウズベキスタン地域観光振興コース

英 文 : Regional Tourism Promotion for Uzbekistan

### (2) 研修期間

a. 全体受入期間：平成14年 1月19日(土)～平成14年 3月27日(水)

b. 技術研修期間：平成14年 2月11日(月)～平成14年 3月26日(火)

### (3) 定 員

6名

## 2. コースの目的・背景

1991年にソ連邦からの独立を果たしたウズベキスタンは、従来の中央計画経済体制から市場経済体制への移行の道を進んでいる。しかし、経済構造はソ連時代と変わらず綿花と関連産業、金や天然ガスなどの天然資源の一次産品に強く依存しており、天候や国際市場の動向に影響されやすい脆弱な面を持っており、今後、中長期的に安定した経済発展を図るために産業構造の多様化への取り組みが求められている。

ウズベキスタンはサマルカンド、ブハラ、ヒヴァ等、シルクロードを代表する史跡と有し、その資源を活用した観光産業には産業の多様化に向けて特に大きな期待が寄せられているが、サービス、インフラ整備、マーケティングはソ連時代から大きな変化はなく、国際水準に達しているとは言い難い状況にある。

そこで大阪国際センターでは、ウズベキスタンで観光振興に携わる人材の育成を目的とした研修を奈良県庁、(財)国際観光開発研究センター(ITDIJ)等の協力を得て実施することとなった。

## 3. 到達目標

(1) 日本の観光地における観光振興策の理論を理解する。

(2) 観光振興における地方自治体・NGO・地域住民の役割を理解する。

#### 4. 研修方法・研修項目

##### (1) 研修方法

###### a. 研修使用言語

ロシア語。研修期間中はロシア語の通訳（研修監理員）を全期間配置する。

###### b. 手法

- ・講義：日本における観光行政、観光プロモーションの手法、地域振興との関連などについての理解を深める。
- ・視察：日本の観光地を視察し、観光地の整備の重要性について学ぶ。
- ・討論：日本での経験を帰国後にどのように活用できるかを研修員と日本側関係者でディスカッションし、帰国後の活動計画である「アクション・プラン」を作成する。

##### (2) 研修項目

東京にて「観光振興概論」を学んだ後、奈良県にて「観光振興実地研修」を行う。また、最後の締めくくりとして「アクション・プラン」の作成の時間を設ける。

詳細は以下のとおり。（また、研修日程は付表-1を参照。）

項目	研修内容	時間割（日数）		
		講義	視察	討論
1. 観光振興概論	(1) 日本の観光行政	0.5		
	(2) 観光開発概論	0.5		
	(3) JNTOの海外旅行者誘致策	0.5		
	(4) 外国政府観光局の日本での誘致活動	0.5		
	(5) 日本旅行協会の役割	0.5		
	(6) 日本のマーケットの特性	0.5		
	(7) 地域開発における観光の効果	0.5		
	(8) 地方の観光開発	0.5		
	(9) 旅行会社から見たウズベキスタン	0.5		
	(10) マーケティングの手法	0.5		
	(11) ホテル経営と接遇	0.5		
	(12) 観光における実務人材育成	0.5		
	(13) 在京ウズベキスタン大使館訪問	0.5		
	小計	6.5		

2. 観光振興実地研修	(1) ウズベキスタン紹介公開セミナー	1.5		
	(2) 奈良県の概要	1.0		
	(3) 奈良県文化遺産視察	1.5		
	(4) 日本人から見たウズベキスタン	0.5		
	(5) 日本におけるウズベキスタンの紹介		0.5	
	(6) ヘリテージ・ツーリズム	1.0		
	(7) ジョブ・レポート		1.5	
	(8) 観光におけるボランティアの役割 (観光案内所等含む)	0.5	0.5	
	(9) 観光振興とインフラ (交通、案内板、トイレ等)	1.0		
	(10) マーケティング各論(1) 旅行代理店の役割	1.0	1.0	
	(11) マーケティング各論(2) 観光プロモーションの手法・実例紹介	1.0		
	(12) 観光振興策実例紹介 (NPOの役割含む)	1.0	2.0	
	(13) 空港サービス	0.5	0.5	
	(14) ウズベキスタン航空の活動	0.5	0.5	
	(15) 土産物(企画・生産・販売)	1.0		
	(16) 食事(旅行者向けの企画)	1.0		
	(17) 観光専門学校カリキュラム	0.5	0.5	
	(18) トラベル・ヘルス	0.5		
	小計	14.5	7.0	
3. 実行計画案作成	(1) アクション・プラン作成			1.0
	(2) アクション・プラン発表			0.5
		小計		
4. 研修旅行			4.0	
		小計	4.0	
	合計	21.0	11.0	1.5

## 5. 研修員参加資格要件

- (1) ウズベキスタン政府から所定の手続きを経て推薦された者。
- (2) サマルカンド、ブハラ、ヒヴァなど主な観光地において、観光産業を通じた地域振興に携わっている者。職種毎の定員は以下のとおり。
  - ・ウズベクツーリズムの地方支部職員 (2名)
  - ・地方自治体の遺跡保存担当者 (1名)
  - ・観光分野の学校のインストラクター (1名)
  - ・民芸品協会(「働く婦人の会」を含む)等のNGO組織職員 (1名)
  - ・民間旅行業者協会会員 (1名)
- (3) 3年以上の観光振興分野での実務経験を有する者。
- (4) 応募時の年齢が45歳以下。

- 5) ロシア語で読み書き、会話のできる十分な能力を有する者（英語も出来る者が望ましい。）
- (6) 心身共に健康である者
- (7) 軍籍にない者

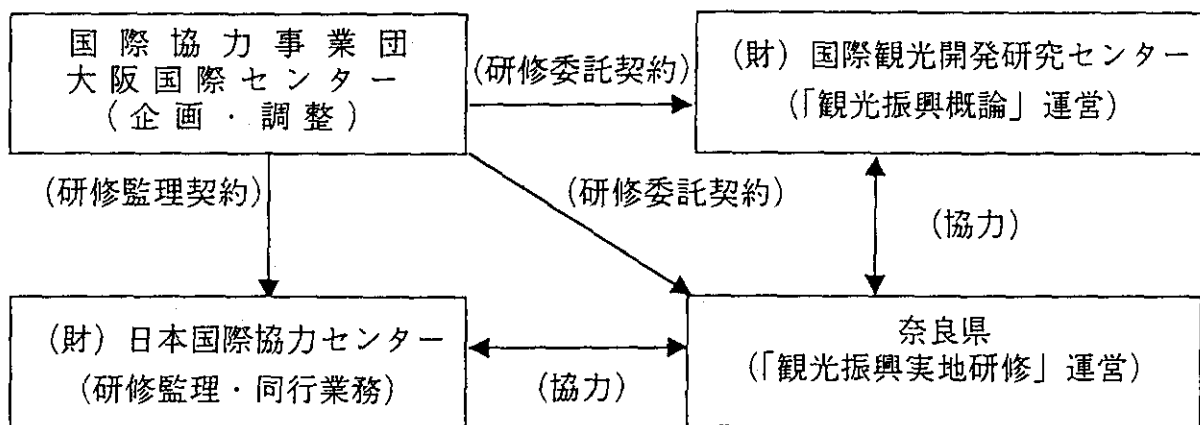
## 6. 研修実施体制

### (1) 実施体制概略

国際協力事業団は、研修実施委託契約に基づき財団法人 国際観光開発研究センター および 奈良県庁 に本コースの研修運営を委託する。

さらに同事業団は本コースの効果的運営のために研修監理業務（通訳・同行業務など）を財団法人 日本国際協力センター に委託し、研修監理員の配置を行う。

これら業務の流れは以下のとおりである。



### (2) 研修運営機関

#### a. 研修実施機関

国際協力事業団 大阪国際センター(OSIC : Osaka International Centre)

〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1

電話：0726-41-6900

FAX：0726-41-6910

ホームページ：<http://www.jica.go.jp/branch/osic>

## b. 研修委託機関

### ア) 奈良県庁

奈良県は面積 3,692km<sup>2</sup>、人口は約 145 万人、日本列島のほぼ中央部、紀伊半島の真ん中であって周囲を山岳に囲まれ、面積の 78%を森林が占める内陸県。法隆寺、東大寺など世界遺産にも登録されている貴重な文化遺産や歴史的風土に恵まれた自然環境を併せ持ち、日本の国土と歴史の中に特異な位置を占める。「世界に光る奈良県づくり」に取り組み、交流の 21 世紀に「関西の憩いのオアシス」となることを目指している。

〒630-8501 奈良県登大路町30

電話：0742-22-1101

FAX：0742-23-0620

ホームページ：<http://www.pref.nara.jp>

### イ) (財) 国際観光開発研究センター

(ITDIJ : International Tourism development Institute of Japan)

ITDIJは、国土交通省の外郭団体で、国際協力事業団、国際協力銀行(JBIC)、国際観光振興会(JNTO)等の協力を得て、国際観光振興に役立つ各種の調査、専門家派遣、研修員受入、情報提供などを行っている。

〒162-0067 東京都新宿区豊久町8-21 T&Tビル

電話：03-5269-4712

FAX：03-5269-4770

## c. 研修監理業務委託機関

(財) 日本国際協力センター(JICE : Japan International Cooperation Center)

(財) 日本国際協力センターは、国際協力事業の実施に関する協力、国際協力に関する広報などにおいて、わが国の国際協力事業の推進に貢献するために昭和52年に設立された公益法人である。

同大阪支所

〒567-0032 大阪府茨木市西駅前町5-10

茨木大同生命ビル2階

電話：0726-24-8686

FAX：0726-24-8681

ホームページ：<http://www.jice.org>

## 7. 宿 舎

国際協力事業団 大阪国際センター (OSIC)

住所：〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1

電話：0726-41-6900

## 8. 研修付帯プログラム

### (1) 集合ブリーフィング

来日の翌日OSICにおいて、事業団規則の説明、滞在費送金用銀行口座の開設手続き、健康保険証 (Medical Card) の交付など、研修員が本邦で研修生活を送るために必要な関連事項の説明および所要の手続きを行う。

### (2) 一般オリエンテーション

日本への理解を助け、短期間に日本社会になじませ、本邦での研修生活を実りあるものにするため、上記(1)のブリーフィングのあとに日本を紹介するプログラムを実施している。

日	時 間	内 容
第1日	10:00~12:00	日本の社会と日本人
	13:30~15:00	日本語の特質から見た日本人と社会
	15:15~17:15	日本の歴史・文化
第2日	10:00~12:00	日本文化紹介ビデオ
第3日	9:45~11:45	日本の教育
	13:15~15:15	日本の経済
	15:30~17:00	日本の政治・行政機構
第4日	終 日	関西バスツアー

### (3) コース・オリエンテーション

本コースの到達目標、カリキュラム構成、研修日程について、コース・オリエンテーションを実施する。

#### (4) 日本語講座

##### a. 目的

日本語の学習を通じて日本人の考え方、行動様式を学び、以て日本における生活を円滑なものとするため、OSICにおいて日本語講習を行う。

##### b. 講義時間および参加形態

###### ア) 集中講習

技術研修に先立ち、1月28日～2月8日まで、1日5時間計50時間実施する。

集中講座は、正規の研修プログラムの一環として実施するものであり、本コースの研修員全員に受講が義務付けられている。

###### イ) 一般講習

集中講習を補完し研修員の知的興味をさらに満たす目的で、集中講習修了後の技術研修期間中の夜間に希望者を対象に実施する。

#### 9. 研修の評価

主として本コースで設定した到達目標をどの程度達成できたかという視点から、研修を構成する諸要素について評価を行う。その結果は、次年度以降のコース改善に役立てることとする。

##### (1) クエスショナア

国際協力事業団所定の様式を用い、コースに参加した研修員が研修全般についての所感を取りまとめる。

##### (2) デイリー・エバリュエーション

付表-2の評価表を使用して、コースに参加した研修員の各講義および見学についての所感を取りまとめ、ファイナル・レポートと相互補完の形で研修の全体評価の資料とする。

#### 10. 修了証書

このコースを修了した研修員に対し、国際協力事業団は修了証書を授与する。



## 1 1. 研修員の待遇

### (1) 入国資格

日本で技術研修を受けることを許可された者。なお、日本滞在中は日本国法令の適用を受けるとともに、働いて収入を得ることはできない。

### (2) 支給手当

国際協力事業団の規程に基づき、本コースの研修員に下記の通り滞在費、その他の手当が支給される。

- a. 各国と日本間の正規運賃航空券。
- b. 生活費として1日あたり3,594円（宿泊費、朝食／夕食費は別途支給）。
- c. その他、支度料(10,000～27,000円期間別)、書籍費(3,000～9,000円期間別)、資料送付料(2,000～13,000円地域別)
- d. 日本に到着後に発生した傷病に対する医療サービス（保険により無料治療）。
- e. 研修のための移動にともなう通勤費および研修旅行の旅費。

なお研修員の日本での滞在は、国際協力事業団のセンターでの宿泊を原則とするが、研修旅行などで最寄りのセンターを利用できない場合は一般のホテルを利用する。ホテル利用の場合、国際協力事業団指定のホテルは、研修員の宿泊料を国際協力事業団がホテルに直接支払い、指定外ホテルの場合は宿泊料の実費を研修員の口座に振り込む。

付表1) 研修日程

月 日	曜日	研 修 内 容	研修場所
平成14年			
1月19日	土	研修員来日	OSIC
21日	月	ブリーフィング	〃
22日	火	} ジェネラルオリエンテーション	〃
~	~		
26日	土		
28日	月	} 日本語集中講座	〃
~	~		
2月8日	金	} 専門研修「観光振興概論」	ITDIJ
11日	月		
~	~		
19日	火	} 専門研修「観光振興実地研修」	奈良県庁
20日	水		
~	~		
3月25日	月	} 総合評価会・閉講式 帰国	OSIC
26日	火		
27日	水		

ITDIJ : 国際観光開発研究センター

OSIC : 国際協力事業団 大阪国際センター

付表2) 研修員による研修評価表

## Evaluation by Subject (Training Progress Report, OSIC)

\*This sheet is to be submitted by the  
first day of the following week.

Course: \_\_\_\_\_

Your Name: \_\_\_\_\_

Date	Subject	Coverage	Level	Material	Communi- cation	Suggestion
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	
		A	A	A	A	
		B	B	B	B	
		C	C	C	C	

Coverage

A:right

B:too broad

C:insufficient

Level

A:right

B:too advanced

C:too elementary

Materials

A:useful

B:not so useful

C:useless

Communication

A:sufficient

B:little difficult

C:insufficient

# Extra Pages for Questionnaire for Future Programs

Name of Participant : \_\_\_\_\_

Nationality : \_\_\_\_\_

Training Course : \_\_\_\_\_

## 1. Your Achievement

A) What new ideas or knowledge have you acquired through the course?

B) If you think these ideas beneficial to you, please mention the reason why.

C) In what way can they be utilized or applied upon returning to your country ?

## 2. Your Suggestions

A) Do the targets (objectives) set for this course (See P2 of GI) meet your / your country's needs ?

B) Points which need to be improved in implementing the training programmes.

C) Other comments

INFORMATION ON COUNTRY FOCUSED TRAINING COURSE  
ИНФОРМАЦИЯ ПО КУРСУ ОБУЧЕНИЯ, ОРИЕНТИРОВАННОМУ ПО СТРАНАМ

**REGIONAL TOURISM PROMOTION  
FOR UZBEKISTAN**  
**КУРС ОБУЧЕНИЯ ПО РАЗВИТИЮ  
РЕГИОНАЛЬНОГО ТУРИЗМА УЗБЕКИСТАНА**  
*JFY 2001*

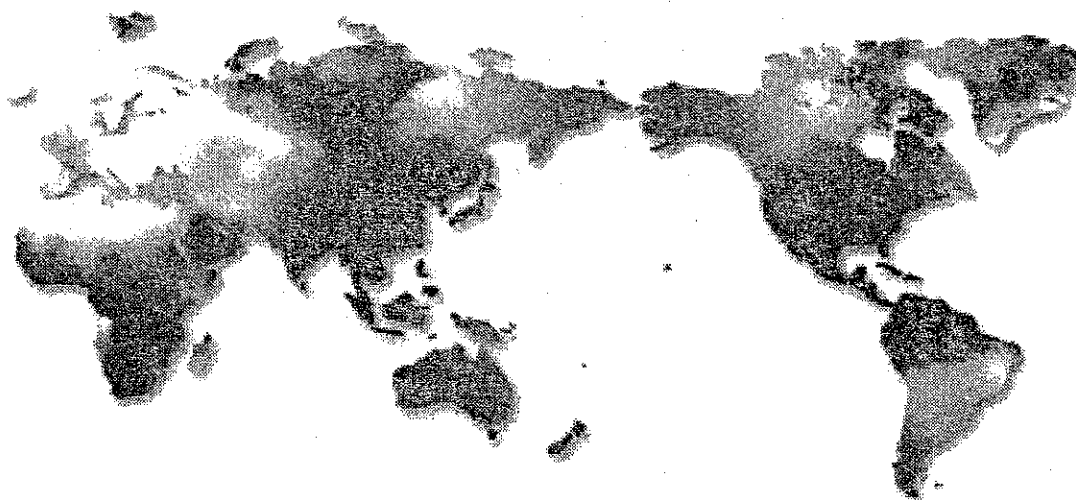
**国別特設：ウズベキスタン地域観光振興**

COURSE NO.: J-01-20248

Курс №: J-01-20248

January 19, 2002 ~ March 27, 2002

19 января – 27 марта 2002 года



THE GOVERNMENT OF JAPAN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

ПРАВИТЕЛЬСТВО ЯПОНИИ  
ЯПОНСКОЕ АГЕНТСТВО МЕЖДУНАРОДНОГО  
СОТРУДНИЧЕСТВА (JICA)



# *Preface*

The Japanese Government extends official development assistance (ODA) to developing countries to support self-help efforts that will lead to economic progress and a better life for the citizens of those countries.

Since its foundation in 1974, the Japan International Cooperation Agency (JICA) has implemented Japan's technical cooperation under the ODA programme.

Currently, JICA conducts such activities as training, dispatch of experts, provision of equipment, project-type technical cooperation, development study, dispatch of cooperation volunteers (JOCV), survey and administration of capital grant aid programmes.

The training programme for overseas participants is one of JICA's fundamental technical cooperation activities for developing countries. Participants come from overseas in order to obtain knowledge and technology in a wide variety of fields.

The objectives of the JICA training programme are:

- (1) to contribute to the development of human resources who will promote the advancement of developing countries, and
- (2) to contribute to the promotion of mutual understanding and friendship.

This training course aims to foster human resources that will contribute to the implementation and planning of feasible measures for tourism promotion in Uzbekistan by deepening participants' knowledge of techniques and methods employed in the promotion of tourism.

# Предисловие

Правительство Японии расширяет официальное содействие развитию (ODA) развивающихся стран для поддержания их собственных усилий на пути к экономическому прогрессу и повышению уровня жизни населения этих стран.

Со времени своего основания в 1974 году, Японское Агентство по Международному Сотрудничеству (JICA) через программу ODA реализует техническое сотрудничество Японии.

В настоящее время JICA занимается такими видами деятельности как обучение, направление экспертов, предоставление оборудования, техническое содействие на уровне разработки проектов, изучение развития, направление добровольцев в области сотрудничества (JOCV), надзор и управление средствами, выделяемыми на программы оказания помощи.

Программа обучения для иностранных участников – это один из основных видов деятельности JICA по оказанию технического содействия развивающимся странам. Участники программы приезжают из различных стран для получения знаний и знакомства с технологиями в различных областях.

Целями программы обучения JICA являются:

- (1) содействие развитию людских ресурсов, которые обеспечат продвижение развивающихся стран вперед, и
- (2) содействие развитию взаимопонимания и дружбы.

Данный курс обучения призван способствовать развитию людских ресурсов, которые будут участвовать в планировании и реализации реальных задач по развитию туризма в Узбекистане посредством углубления знаний участников о методах и технологиях, используемых для развития туризма.



## I. ESSENTIAL FACTS

COURSE TITLE	Regional Tourism Promotion for Uzbekistan
DURATION	January 19, 2002 ~ March 27, 2002
DEADLINE FOR APPLICATION	December 12, 2001 * for acceptance at the JICA office
NUMBER OF PARTICIPANTS	6
LANGUAGE	Russian
TARGET GROUP	People capable of fulfilling a leadership role in regional promotion through local tourism. Specifically: local government managers of historic site preservation; staff at local agencies of Uzbektourism; instructors at schools concerned with tourism; or members of NGOs, e.g. folk arts and crafts associations (incl. The Association of Business Women of Uzbekistan); and domestic travel agent associations, etc.
COURSE OBJECT	1. Acquire an understanding of the concepts and logic involved in tourism promotion of sightseeing spots in Japan. 2. Acquire an understanding of the roles of local government, NGOs and local residents in tourism promotion.
TRAINING INSTITUTION	Nara Prefectural Government Address: 30 Noborioji-cho, Nara-shi, Nara-ken 630-8501, Japan Tel: 81(*)-742(**)-22-1101 Fax: 81(*)-742(**)-22-0620  International Tourism Development Institute of Japan (ITDIJ) Address: T & T Bldg. 8-21, Tomihisa-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0067, Japan Tel: 81(*)-3(**)-5269-4712 Fax: 81(*)-3(**)-5269-4770
ACCOMMODATIONS	Osaka International Centre (OSIC), JICA Address: 25-1 Nishi-Toyokawa-cho, Ibaraki-shi, Osaka 567-0058, Japan Tel.: 81(*)-726(**)-41-6900 Fax.: 81(*)-726(**)-41-6910  * If no room is available at OSIC, JICA will arrange accommodations for participants at other appropriate places.
ALLOWANCES & EXPENSES	The Government of Japan provides the following allowances and covers the following expenses through JICA in accordance with relevant laws and regulations. <u>Details</u> Round-trip air ticket between an international airport designated by JICA and Japan, accommodation allowance, living allowance, outfit allowance, book allowance, shipping allowance, expenses for JICA study tours, free medical care for participants who become ill after arrival in Japan (costs related to preexisting illness, pregnancy and dental treatment are not included), etc.

(\*) country code of Japan (\*\*) area code

Notes **Nara Prefecture** (Homepage: <http://www.pref.nara.jp/index-e.html>)

Occupying approx. 3,692km<sup>2</sup> and with a population of approx. 1.45 million, Nara is situated near the center of the Japanese Islands surrounded by mountains in the heart of the Kii Peninsula making it the inland prefecture with 78% of its area covered by forest. Blessed with natural environs possessing both the rich cultural heritage and historical landscapes seen at World Heritage sites such as the Horyuji and Todaiji temples, the Prefecture occupies a unique position in the geography and history of Japan.

### **International Tourism Development Institute of Japan (ITDIJ)**

An affiliated organization of the Ministry of Land, Infrastructure and Transport, the ITDIJ works with the Japan International Cooperation Agency (JICA), Japan Bank for International Cooperation (JBIC), Japan National Tourist Organization (JNTO) and others to carry out a wide array of activities valuable to tourism promotion including surveys and studies, dispatch of experts, acceptance of trainees and information services.

## I. ОСНОВНЫЕ ФАКТЫ

НАЗВАНИЕ КУРСА	Развитие регионального туризма в Узбекистане
СРОК ПРОВЕДЕНИЯ	19 января - 27 марта 2002 года
СРОК ПОДАЧИ ЗАЯВОК	12 декабря 2001 года * для сдачи в офис JICA
КОЛИЧЕСТВО УЧАСТНИКОВ	6
ЯЗЫК	Русский
УЧАСТНИКИ ГРУППЫ	Лица, способные играть ведущую роль в развитии регионального туризма. В частности: местные государственные руководители, отвечающие за сохранение исторических памятников; персонал и местные агентства Узбектуризма; инструкторы школ, связанных с туризмом; или члены НГО, например, объединений народного искусства и народных ремесел (включая Ассоциацию женщин-предпринимателей Узбекистана); ассоциации местных бюро путешествий, и т. п.
ЗАДАЧА КУРСА	1. Понимание концепции и логики, связанной с развитием туризма по достопримечательностям Японии. 2. Осознание роли местных органов управления, НГО и местного населения в продвижении туризма.
ОРГАНИЗАЦИЯ, ПРОВОДЯЩАЯ ОБУЧЕНИЕ	Nara Prefectural Government (Правительство префектуры Нара) Адрес: 30 Noborioji-cho, Nara-shi, Nara-ken 630-8501, Japan Телефон: 81(*)-742(**)-22-1101 Факс: 81(*)-742(**)-22-0620 International Tourism Development Institute of Japan (ITDIJ) (Японский Институт Развития Международного Туризма) Адрес: T & T Bldg. 8-21, Tomihisa-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0067, Japan Телефон: 81(*)-3(**)-5269-4712 Факс: 81(*)-3(**)-5269-4770.
ПРОЖИВАНИЕ	Osaka International Centre (Международный центр Осаки) (OSIC), JICA Адрес: 25-1 Nishi-Toyokawa-cho, Ibaraki-shi, Osaka 567-0058, Japan Телефон: 81(*)-726(**)-41-6900 Факс: 81(*)-726(**)-41-6910 * Если в Международном центре Осаки (OSIC) не будет свободных мест, JICA предоставит проживание в других соответствующих местах.
СОДЕРЖАНИЕ И РАСХОДЫ	Правительство Японии, через JICA, в соответствии с действующими законами и нормами, оплачивает и покрывает следующие расходы: <u>Подробности</u> Авиабилет до Японии и обратно из международного аэропорта, указанного JICA, расходы по проживанию, на необходимое оборудование, книги, транспортные расходы, расходы при поездках в целях обучения в JICA, бесплатное медицинское обслуживание участников, заболевших после их прибытия в Японию (за исключением расходов, связанных с хроническими заболеваниями, беременностью и оказанием стоматологической помощи), и т. п.

(\*) код страны для Японии (\*\*) код города

### Примечания

**Префектура Нара (Nara)** Домашняя страница: <http://www.pref.nara.jp/index-e.html>

Занимая территорию около 3692 км<sup>2</sup>, с населением около 1,45 миллиона, префектура Нара располагается практически в центре Японских островов, окруженная со всех сторон горами и расположенная в центре полуострова Кии, она является материковой префектурой, 78% площади которой покрыто лесом. Префектура с ее прекрасными естественными ресурсами и богатым культурным наследием, с историческими ландшафтами, входящими в состав Мирового Наследия, такими как храмы Хоруджи и Тодаджи, занимает уникальное место в географии и истории Японии.

**Японский Институт Развития Международного Туризма (ITDIJ)**

Входящая в состав Министерства территорий, инфраструктуры и транспорта, ITDIJ работает в сотрудничестве с Японским Агентством по Международному Сотрудничеству (JICA), Японским банком международного сотрудничества (JBIC), Японской национальной туристической организацией (JNTO) и другими организациями по реализации мероприятий связанных с развитием туризма, включая надзор и обучение, распределение экспертов, прием обучающихся и оказание информационных услуг.

## II. CURRICULUM (tentative)

SUBJECT	CONTENT	SCHEDULE (days)			LOCATION	INSTITUTION
		Lecture	Observation	Discussion		
Overview of Tourism Development	Tourism Administration in Japan	0.5			Tokyo	ITDIJ
	Outline of Tourism Development	0.5			"	"
	Measures to Attract Overseas Travelers by JNTO	0.5			"	"
	Activities of Overseas Government Tourism Bureaus to Attract Japanese Travelers	0.5			"	"
	Role of Travel Agent Associations in Japan	0.5			"	"
	Characteristics of the Japanese Market	0.5			"	"
	The Effects of Tourism in Regional Development	0.5			"	"
	Local Tourism Development	0.5			"	"
	How Uzbekistan Is Viewed by Travel Companies	0.5			"	"
	Marketing Methods	0.5			"	"
	Hotel Management and Service	0.5			"	"
	Fostering Business Personnel for the Tourism Industry	0.5			"	"
	Visit to the Embassy of the Republic of Uzbekistan	0.5			"	"
	(Subtotal)	6.5				
Regional Tourism Development Practical Training	Public Seminar Introducing Uzbekistan	1.5			Nara	Prefectural Planning Department
	Overview of Nara Prefecture	0.5			"	"
	Observation of Nara's Cultural Treasures	1.5			"	"
	Japanese Views of Uzbekistan	0.5			Osaka	National Museum of Ethnology
	Introducing Uzbekistan in Japan		0.5		"	"
	Heritage Tourism	1.0			"	"
	Job Report			1.5	Nara	Prefectural Planning Department

## II. КУРС ОБУЧЕНИЯ (ориентировочный)

ПРЕДМЕТ	СОДЕРЖАНИЕ	ДЛИТЕЛЬНОСТЬ (дней)			МЕСТО ПРОВЕДЕНИЯ	ОРГАНИЗАЦИЯ
		Лекция	Наблюдение	Обсуждение		
Обзор развития туризма	Управление туризмом в Японии	0.5			Токио	ITDIJ
	Основные этапы развития туризма	0.5			"	"
	Меры, предпринимаемые JNTO, для привлечения иностранных туристов	0.5			"	"
	Деятельность туристических агентств иностранных государств по привлечению японских туристов	0.5			"	"
	Роль ассоциаций туристических агентств в Японии	0.5			"	"
	Характеристики японского рынка	0.5			"	"
	Воздействие туризма на развитие регионов	0.5			"	"
	Развитие местного туризма	0.5			"	"
	Как туристические компании воспринимают Узбекистан	0.5			"	"
	Методы маркетинга	0.5			"	"
	Управление гостиницами и услуги	0.5			"	"
	Подготовка персонала для сферы туризма	0.5			"	"
	Посещение посольства Республики Узбекистан	0.5			"	"
	(Итого)	6.5				
Практические занятия по развитию регионального туризма	Общественный семинар по знакомству с Узбекистаном	1.5			Нара	Департамент планирования префектуры
	Обзор префектуры Нара	0.5			"	"
	Знакомство с культурными ценностями Нара	1.5			"	"
	Как японцы представляют Узбекистан	0.5			Осака	Национальный музей этнологии
	Знакомство японцев с Узбекистаном		0.5		"	"
	Туризм по историческим местам	1.0			"	"
	Отчет о проделанной работе		1.5		Нара	Департамент планирования префектуры

SUBJECT	CONTENT	SCHEDULE (days)			LOCATION	INSTITUTION
		Lecture	Observation	Discussion		
Regional Tourism Development Practical Training	Role of Volunteers in Tourism (Tourist Information Centers, etc.)	0.5	0.5		"	"
	Infrastructure and Tourism Promotion (Transport, Signs, Toilets, etc.)	1.0			"	"
	Marketing Theory (1) The Role of Travel Agencies	1.0	1.0		Osaka	JTB Corp.
	Marketing Theory (1) Methods and Cases of Tourism Promotion	1.0			Nara	Prefectural Planning Department
	Examples of Tourism Promotion Tactics (Incl. Role of NGOs)	1.0	2.0		Osaka	Rekishi Kaido Promotional Council
	Airport Services	0.5	0.5		"	Kansai International Airport Co., Ltd.
	Activities of Uzbekistan Airways	0.5	0.5		"	Uzbekistan Airways
	Souvenirs (Planning, Product & Sales)	1.0			Nara	Planning Department, International Affairs Division
	Dinning (Planning for Travelers)	1.0			"	"
	Tourism Specialty School Curriculum	0.5	0.5		"	"
	Travel and Health	0.5			"	National Institute of Public Health
	(Subtotal)	14.5	7.0			
	Preparation of Action Plans	Drafting of Action Plans			1.0	Osaka
Presentation of Action Plans				0.5	"	"
(Subtotal)				1.5		
Study Trips	"One Village, One Product" Movement		4.0		Undecided	Planning Department, International Affairs Division
	(Subtotal)		4.0			
	Total	21.0	11.0	1.5		

ПРЕДМЕТ	СОДЕРЖАНИЕ	ДЛИТЕЛЬНОСТЬ (дней)			МЕСТО ПРОВЕДЕНИЯ	ОРГАНИЗАЦИЯ
		Лекция	Наблюдение	Обсуждение		
Практические занятия по развитию регионального туризма	Роль волонтеров в туризме (Информационные туристические центры и т. п.)	0.5	0.5		"	"
	Инфраструктура и продвижение туризма (Транспорт, таблички, туалеты и т. п.)	1.0			"	"
	Теория маркетинга (1) Роль туристических бюро	1.0	1.0		Осака	Корп. JTB
	Теория маркетинга (1) Методы и способы продвижения туризма	1.0			Нара	Департамент планирования префектуры
	Примеры тактики продвижения туризма (Включая роль НГО)	1.0	2.0		Осака	Совет по продвижению услуг Rekishi Kaido
	Услуги в аэропортах	0.5	0.5		"	Kansai International Airport Co., Ltd.
	Деятельность авиакомпании «Узбекские авиалинии»	0.5	0.5		"	Узбекские авиалинии
	Сувениры (Планирование, изделия и продажа)	1.0			Нара	Департамент планирования, международный отдел
	Питание (Планирование для туристов)	1.0			"	"
	Школьный курс специализации по туризму	0.5	0.5		"	"
	Туризм и здоровье	0.5			"	Национальный институт здравоохранения
	(Итого)		14.5	7.0		
Подготовка планов действий	Черновые варианты планов действий			1.0	Осака	Департамент планирования, международный отдел
	Презентация планов действий			0.5	"	"
	(Итого)			1.5		
Поездки с целью изучения	Движение "Одна деревня – одно изделие"		4.0		Не решено	Департамент планирования, международный отдел
	(Итого)		4.0			
	Всего	21.0	11.0	1.5		

### **III. REQUIREMENT FOR APPLICATION**

Applicants should:

1. be nominated by the governments of UZBEKISTAN in accordance with the procedures mentioned in IV. below;
2. be involved in local promotion through the tourism industry in major tourism areas such as Smamarkand, Bukhara and Khiva. The number of participants to be accepted and their various affiliations are as follows.
  - Two (2) from Uzbektourism (Not from central, but from regional organizations thereof.)
  - One (1) from provincial or municipal agencies overseeing preservation of historical sites
  - One (1) faculty advisor from a school for tourism
  - One (1) from a folk arts and crafts association (an NGO working to revitalize regional areas through sales of arts and crafts)
  - One (1) member from a private sector association of travel agents;
3. have at least three (3) years' experience working in the field of tourism promotion;
4. be no older than forty-five (45) years at the time of application;
5. have an adequate command of written and spoken Russian (ability in English is also desirable);
6. be in good health, both physically and mentally, to undergo the training; and
7. not be serving in the military

#### **ATTENTION**

Participants are required:

- (1) not to change training subjects or extend the training period,
- (2) not to bring any members of their family,
- (3) to return to their home country at the end of their training according to the international travel schedule designated by JICA,
- (4) to refrain from engaging in political activities or any form of employment for profit or gain, and
- (5) to observe the rules and regulations of their place of accommodation and not to change accommodations designated by JICA.

### **III. ТРЕБОВАНИЯ К КАНДИДАТАМ**

Кандидаты:

1. должны быть отобраны правительством Узбекистана, в соответствии с процедурами, указанными в пункте IV ниже;
2. должны принимать участие в развитии сферы туризма в основных туристических районах, таких как Самарканд, Бухара и Хива. Допустимое количество участников и их место работы определяются следующим образом:
  - Два (2) участника из Узбектуризма (из региональных, а не из центрального отделения.)
  - Один (1) участник из провинциальных или муниципальных организаций, отвечающих за сохранение исторических памятников
  - Один (1) участник из учебного заведения по туризму
  - Один (1) участник из ассоциации народного искусства и народных ремесел (работающий в НГО в области возрождения регионов посредством продаж изделий народных промыслов).
  - Один (1) участник частого туристического агентства, входящего в ассоциацию туристических агентств;
3. должны иметь, как минимум, три (3) года опыта работы в области продвижения туризма;
4. должны на момент подачи заявки иметь возраст не старше сорока пяти (45) лет;
5. должны иметь соответствующие навыки письменного и устного русского языка (также желательно знание английского языка);
6. должны быть здоровым, как физически, так и умственно для прохождения обучения;  
и
7. не должны находиться на военной службе.

#### **ВНИМАНИЕ**

От участников требуется:

- (1) не менять предметов обучения и не увеличивать время обучения,
- (2) не брать с собой кого-либо из членов семьи,
- (3) возвратиться в свою страну по окончании обучения в соответствии с международным графиком отъезда, составленным JICA,
- (4) воздерживаться от участия в политической деятельности или от любой трудовой деятельности в целях получения прибыли или заработка, и
- (5) соблюдать правила и требования, существующие в месте проживания, и не менять место проживания, указанное JICA.



## **IV. PROCEDURE FOR APPLICATION**

1. A government desiring to nominate applicants for the seminar should fill in and forward one (1) original and three (3) copies of the Nomination Form (Form A2A3) for each applicant to the JICA office by December 12, 2001.
2. The JICA office will inform the applying government whether or not the nominee's application has been accepted no later than December 19, 2001.
3. JOB REPORT

Applicants should prepare a report on the present situation of their field of study and interest in their own country. This Job Report should be typewritten and double-spaced in English (approximately 7 to 8 pages, A4-size) and in accordance with the format indicated in the ANNEX and submitted together with Nomination Form.

It would be appreciated if, before coming to Japan, participants could prepare materials, such tourism statistics or development plans, etc., that will add depth to their Job Reports. Visual materials (maps, slides, videotapes, photos, etc.) are also appreciated.

## **V. OTHER MATTERS**

1. A Public Seminar Introducing Uzbekistan is scheduled to be held during the training. Accordingly, when coming to Japan, participants should bring materials (such as photographs, diagrams, statistical data and representative folk handicrafts, etc.) for use in introducing Uzbekistan.
2. Pre-departure orientation is held at the JICA office (or the Embassy of Japan) to provide the selected candidates with details on travel to Japan, conditions of training, and other matters. Participants will see a video, "TRAINING IN JAPAN", and will receive a textbook and cassette tape, "SIMPLE CONVERSATION IN JAPANESE". A brochure, "GUIDE TO TRAINING IN JAPAN" will be handed to each selected candidate before (or in the time of) the orientation.
3. General Orientation for Introduction to Japan  
Participants are scheduled to participate in an orientation programme offered by Osaka International Centre (OSIC) for the purpose of providing participants with general information on key points regarding Japan and with the tools needed for adapting to life and training in Japan.
4. Participants who have successfully completed the training will be awarded a certificate by JICA.

## **IV. ПРОЦЕДУРА ПОДАЧИ ЗАЯВКИ**

1. Правительство, желающее представить своих кандидатов для участия в семинаре, должны заполнить и отправить один (1) оригинал и три (3) копии Бланка Заявки (Форма А2А3) для каждого кандидата в офис ЛСА до 12 декабря 2001 года.
2. Офис ЛСА проинформирует соответствующее правительство о допуске или об отказе тому или иному кандидату не позднее 19 декабря 2001 года.

### **3. ОТЧЕТ О РАБОТЕ**

Участники должны подготовить отчет о текущей ситуации по тематике курса обучения в их собственной стране и в соответствии с их интересами. Отчет о работе должен быть отпечатан на английском языке через два интервала (приблизительно 7-8 страниц формата А4) и в соответствии с форматом, указанным в ПРИЛОЖЕНИИ. Отчет должен быть представлен вместе с бланком заявки.

Желательно, чтобы перед поездкой в Японию участники подготовили материалы, такие как статистическую информацию в области туризма, или планы развития и т. п., которые позволят сделать отчеты о работе более глубокими и подробными. Также приветствуется наличие визуальных материалов (карты, слайды, видеокассеты, фотографии и т. п.).

## **V. ДРУГИЕ МАТЕРИАЛЫ**

1. Во время обучения планируется проведение Общественного семинара по знакомству с Узбекистаном. Поэтому, выезжая в Японию, участники должны взять с собой соответствующие материалы (такие как фотографии, диаграммы, статистические данные, образцы изделий народных ремесел, и т. п.), которые могут использоваться при проведении семинара.
2. Перед поездкой в Японию в офисе ЛСА (или в Посольстве Японии) будет проведено ознакомление выбранных кандидатов с деталями их поездки в Японию, с условиями обучения и т. п. Участникам будет показан видеофильм «ОБУЧЕНИЕ В ЯПОНИИ», выдан учебник и аудиокассета «ПРОСТОЕ ОБЩЕНИЕ НА ЯПОНСКОМ ЯЗЫКЕ». Перед (или во время) ознакомления каждому выбранному кандидату будет выдана брошюра «РУКОВОДСТВО ПО ОБУЧЕНИЮ В ЯПОНИИ».
3. Общие сведения для знакомства с Японией  
Предполагается, что участники примут участие в программе ознакомления, предлагаемой Международным Центром Осаки (OSIC), с целью предоставления участникам обучения общей информации по ключевым вопросам, касающимся Японии, и соответствующие средства, необходимые для адаптации к жизни и обучению в Японии.
4. Участники, успешно закончившие обучение, получают сертификат, выданный ЛСА.

## Job Report

1. Outline of Applicant's Organization
  - (1) History
  - (2) Activities
  - (3) Number of members
  - (4) Organization chart
  - (5) Source and size of budget
  - (6) Number of tourists dealt with and main country(s) of origin
  - (7) Relations with businesses, NGOs, support organizations, etc., overseas
  
2. Duties Performed by the Applicant (Describe in Detail, Indicating the Applicant's Position in the Organization Chart.)
  
3. Efforts Being Made toward Improvements and/or Issues Faced in the Applicant's Work
  
4. What the Applicant Expects from the Training

## Отчет о работе

1. Характеристика организации участника
  - (1) История
  - (2) Виды деятельности
  - (3) Количество работающих
  - (4) Диаграмма структуры организации
  - (5) Источники и размер финансирования
  - (6) Количество обслуживаемых туристов и основные страны, из которых они прибывают
  - (7) Отношения с деловыми партнерами, НГО, обслуживающими организациями, иностранными партнерами и т. п.
2. Обязанности, выполняемые участником (подробно опишите, указав положение участника в структуре организации)
3. Усилия, направленные на улучшение работы и/или проблемы, с которыми сталкивается участник в своей работе
4. Что участник ожидает получить от обучения



